

# 平成 21 年度 体育センター長期研修研究報告

## 一人一人が打撃の充実感を味わう ベースボール型の学習

—学習過程や場の工夫によりバット操作が身に付く活動を通して—



神奈川県立体育センター  
長期研究員

相模原市立大野北中学校 鈴木 留美子

## 目次

### 第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	2
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

### 第2章 理論の研究

1	学習指導要領及び学習指導要領解説	4
2	ベースボール型の特性	4
3	技能の要素	5
4	「打撃の充実感」とは	7
5	学習の方法	7
6	打撃に着目する必要性	9

### 第3章 検証授業

1	研究の仮説	10
2	検証の方法	10
3	学習指導計画	11
4	授業の実際	21
5	検証授業の結果と考察	34
6	指導の工夫とその効果及び課題	46
7	授業全体を振り返って	47

### 第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	57
2	今後の展望	57
3	最後に	58
	〈引用・参考文献〉	58

# 第1章 研究を進めるにあたって

## 1 研究主題

### 一人一人が打撃の充実感を味わうベースボール型の学習

—学習過程や場の工夫によりバット操作が身に付く活動を通して—

## 2 主題設定の理由

内閣府の調査報告書によると、現在の子どもたちは、自分に自信がなく、学習に不安を感じているなどの傾向が指摘されている。<sup>1)</sup> 近年、大野北中学校の体育の授業にもその傾向が見られており、2年女子生徒の実態調査からは、「体育の授業が嫌い・どちらかという嫌い」と感じている生徒が2割おり、その理由に全員が「運動に対して苦手だから」と答えている。これは、これまで運動に対する成功体験があまりなく、苦手意識ばかりが先行してしまうためと考える。体育の授業では、すべての生徒が、「できた」という成功する体験を積み、自信をもって学習に取り組むことが重要と感じる。

さて、新学習指導要領では、「球技」の領域は「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の3つの型で示されることとなり、中学校1、2学年の期間において、すべての型を学習することが必須となった。しかし、「ベースボール型」は、ルールや戦術が複雑であることや、ゲームを楽しむためには打つ、捕る、走る、守るなどの幅広い技能が必要とされることなどから、授業を展開するに当たっては、他の型以上に工夫した取組を実践することが必要であると感じる。

また、「ベースボール型」のゲームでは、「ヒットを打つ」ことによって、攻防が展開される。つまり、「打てる」ことが、進塁や得点をする楽しさや、それらを阻止する楽しさを感じるカギとなっている。よって、「打てる」ようになることは、「ベースボール型」の特性を味わうために不可欠なものとする。生徒一人一人が確実なバット操作を身に付けていく過程で、「打てる」成功体験を積み重ねることにより、苦手意識をもつ生徒が自信をもって活動に取り組むものとする。

そこで、本研究では、「ベースボール型」の領域を取り上げ、一人一人が打つ楽しさを味わえる学習を目指し、望ましいフォームでミートできるバット操作を身に付けるために、学習過程や場の工夫を行い、打撃の充実感を味わわせることとした。そのことによって生徒が自信をもって「ベースボール型」の学習に取り組み、ゲームの攻防の楽しさを味わい、運動することの喜びを感じ、明るく豊かで活力のある姿になるのではないかと考える。

### 3 研究の目的

本研究では、生徒一人一人が能力に応じたバット操作を身に付ける過程において、打撃の充実感を味わえる授業を実践・検証し、ソフトボールの授業改善の一助とする。

### 4 研究の仮説

主題設定の理由に基づいて、研究の仮説を次のように設定した。

- (1) 投球ボールが選択できる場の工夫により、ミートするバッティングが身に付くであろう。
- (2) 段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付くであろう。
- (3) 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができるであろう。

### 5 研究の内容と方法

#### (1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料をもとに行う。

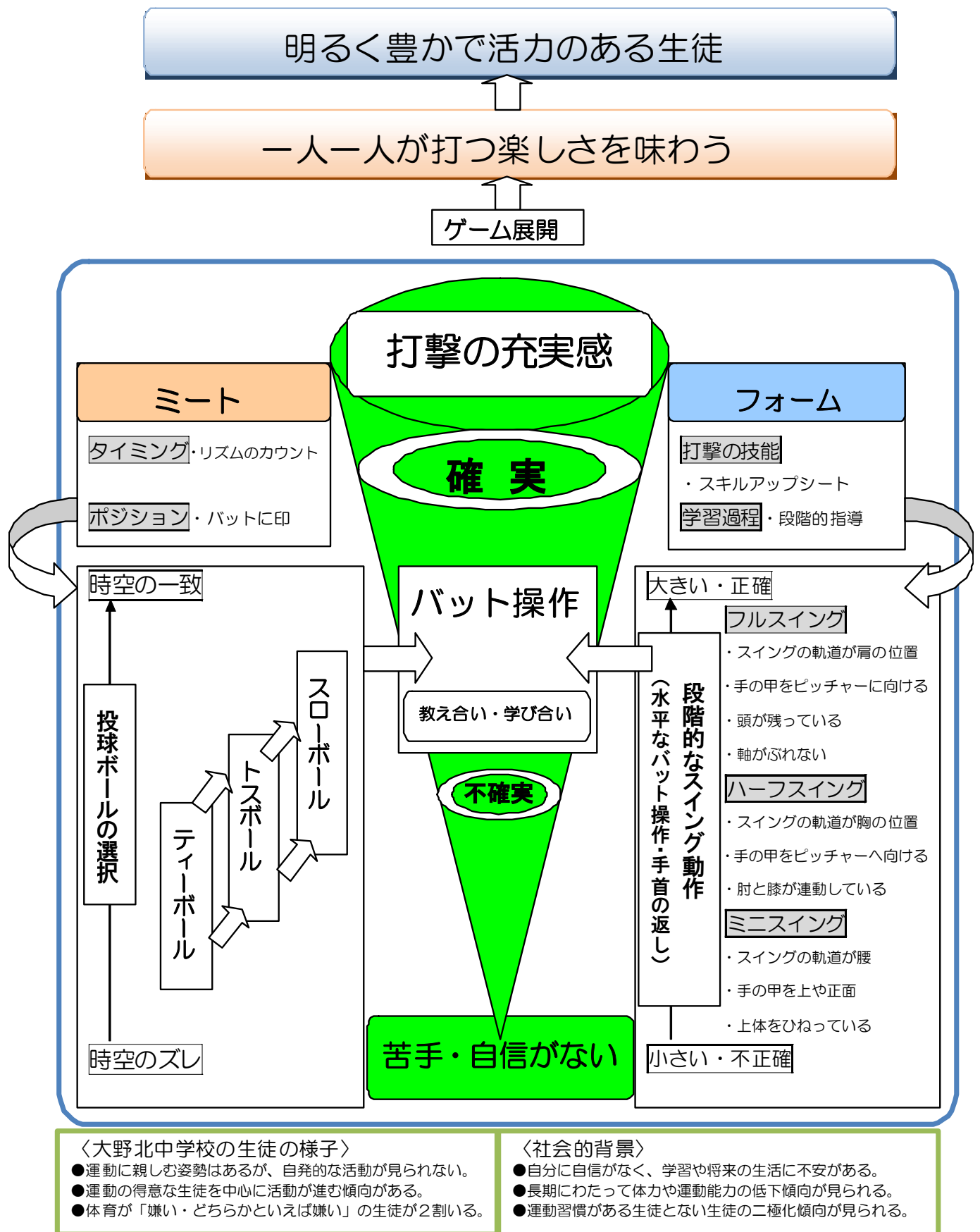
- ア 学習指導要領及び学習指導要領解説
- イ ベースボールの特性
- ウ 技能の要素
  - (ア) 「バット操作」に必要な要素とは
  - (イ) 「ミート」に必要な要素とは
  - (ウ) 「フォーム」に必要な要素とは
- エ 「打撃の充実感」とは
- オ 学習の方法
  - (ア) ヴィゴツキーの最近接領域
  - (イ) 学習過程モデル
  - (ウ) グループ学習
  - (エ) 教え合い・かかわり合い
- カ 打撃に着目する必要性

#### (2) 理論研究を基に学習計画を立て実践研究を行い、仮説の有効性を検証する。

- ア 実態調査・分析
- イ 学習指導計画の立案
- ウ 事前アンケート調査・分析
- エ 検証授業
- オ 事後アンケート調査・分析
- カ 結果の分析と考察

#### (3) 以上の理論と実践を基に研究のまとめを行う。

## 6 研究の構想図



### 〈大野北中学校の生徒の様子〉

- 運動に親む姿勢はあるが、自発的な活動が見られない。
- 運動の得意な生徒を中心に活動が進む傾向がある。
- 体育が「嫌い・どちらかといえば嫌い」の生徒が2割いる。

### 〈社会的背景〉

- 自分に自信がなく、学習や将来の生活に不安がある。
- 長期にわたって体力や運動能力の低下傾向が見られる。
- 運動習慣がある生徒とない生徒の二極化傾向が見られる。

## 第2章 理論の研究

### 1 学習指導要領及び学習指導要領解説

球技は、「ゴール型」、「ネット型」及び「ベースボール型」などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、『ゲーム』と『ボール運動』で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習をしている。



中学校ではこれらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを發展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームが展開できるようにすることが求められる。

ベースボール型の授業では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすること、分担した役割を果たすことや、話し合いに参加することなどに意欲をもち、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた取り組み方を工夫できるようにするとされている。<sup>2)</sup>

「ベースボール型」とは、身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交替し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。

「基本的なバット操作」とは、自らが出塁したり仲間を進塁させたりして得点を取るために基本となるバットの握り方や構え方から、ボールをとらえる際の体重移動、バットの振り方、ボールのとらえ方、ボールをとらえた後の身体や用具の操作などで、タイミングを合わせてバットを振り抜きボールを打ち返すことである。

「走塁」とは、塁間を走ることであり、次の塁をねらって全力で塁をかけ抜けたり、打球の状況によって止まったりするなどのボールを持たないときの動きのことを示している。

「ボール操作」とは、ボールを受ける前の身体の構え方から、打球の方向に合わせた打球の通過コースや落下地点への移動の仕方、基本となるグラブの使い方、ボールの握り方や投げ方、ボールを投げた後の身体の操作などでゴロやフライを捕ったり、ねらった方向にボールを投げたり、味方からの送球をポジションに応じて受けたりすることである。

「定位置での守備」とは、投球が開始されるごとに、ポジションごとの決められた位置に繰り返し立ったり、打球や送球などに備える準備姿勢で構えるなどのボールを持たない動きのことである。<sup>3)</sup>

特に、学習指導要領解説では、第1学年及び第2学年では攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにするとあり、指導に際しては、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を中心とした学習課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、グラウンドの広さ、用具など、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れることが求められていることから、本研究においては、打撃を中心とした学習課題を追求する練習や、プレイ上の制限を工夫した簡易ゲームを取り入れた学習を展開することとした。

### 2 ベースボール型の特性

#### (1) 運動の特性

ベースボール型には、打つ（打撃）・捕る（捕球）・投げる（送球）・走る（走塁）などの個人的技能や、攻撃や守備の戦術を取り入れた集団的技能があり、変化に富んだゲームを展開できる特性がある。さらに、チームとしてお互いが協力しサポートしていく姿や、教え合ったり励まし合ったりする姿がみられ、競技方法やルールを身に付けたり、道具を工夫したりすることで様々なレベルでの競技も可能となり、生涯スポーツとして適した屋外型のスポーツである。

ベースボール型競技全体に言えることとして、守備や走塁、走るための瞬発力や打球の方

向によっては敏捷性、打球の方向や飛距離を判断するための動体視力、そして状況の変化に即座に対応できる判断力が必要である。4) 5) 6)

このことから体育の授業では、その種目もっている特性を理解した上で、技術の習得やゲームによる戦略といった動きを、生徒自身が獲得していると感じられる展開の工夫が必要となる。

## (2) 生徒からみた特性

ベースボール型は、ボールを思い切り打つことに魅力や楽しさがある運動である。また、仲間と協力して攻撃や守備を工夫しながら得点を競い合い、打つ、捕る、投げる、走るなど、様々な運動技能を要するため、ベースボール型の運動経験の有無による技能面での差や男女差が現れる運動である。さらにチームで行う集団運動であるため、協調性やマナーなどの社会性をはぐくむことができ、ルールを工夫することで、今ある生徒の技能でベースボール型のゲームの楽しさを味わうことができる。

ベースボール型競技は日本では大変人気があり、その1番の理由はいろいろな体格の人が楽しめる点だと思われる。球を遠くまで飛ばす能力があれば、もちろん有利であるが、さほどパワーがなくても走力や敏捷性、判断力があれば一役買える<sup>7)</sup>とされている。

そこで今回は、集団運動といえども個人技能がゲーム展開の多くを占めることから、まずは基本的な技術の習得をグループによる教え合いにより深め、身に付けた技術を互いにゲームの中で発揮するなどの取組を支援していく。

## 3 技能の要素

### (1) 「バット操作」に必要な要素とは

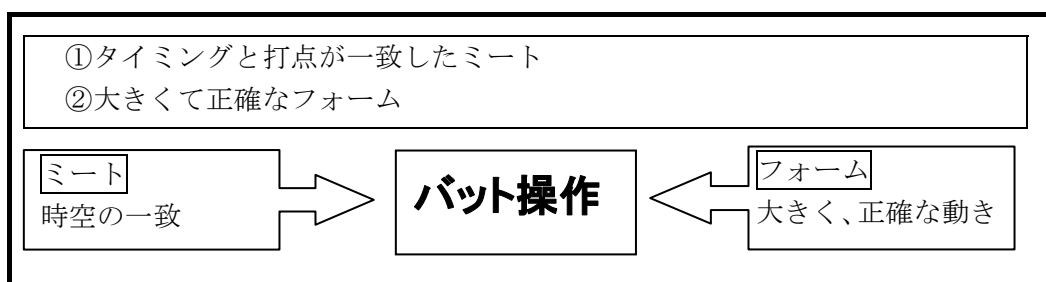


図2-1「バット操作」に必要な要素

スポーツ科学では、スキルとは巧みな身体運動を行うために必要な学習された身体能力のことを指す。この場合におけるスキルは、「状態把握能力」（視覚、聴覚、筋運動感覚、予測）、「正確さ」（ポジショニング＝筋の選択、タイミング＝出力時刻調節、グレーディング＝出力強度調節）、「反応開始や反応切り替えの素早さ」、「正確と素早さの持続性」の4要素からなるものをいう。さらにこの場合のスキルは、脳の随意運動制御能力であり、サイバネティクスの体力の随意的要素のことを指す。<sup>8)</sup>

これをバット操作に置き替えた場合には、「状態把握能力」は投球ボールのコースやスピード、変化の予測など、「正確さ」は予測したボールの位置と時刻にバットの振り方の強弱をつけて振ることなど、「反応開始や反応切り替えの素早さ」は、意思決定からの振り出しや決定したスイング動作の変更の素早さなどを、「正確さと素早さの持続性」はスイングの正確さと素早さを同様に反復して発揮できることなどを指すと考えられる。

そこで今回は、このうちの正確さに関することに着目し、バット操作に必要な要素として予測したボールの位置と時刻にバットを振ることをミートと捉え、また、バットを正確に反復して振ることをフォームと捉え、バット操作に必要な要素とする。

### (2) 「ミート」に必要な要素とは

タイミングと打点を合わせて当てること。

ミートは英語で『m e e t』と書き、合う、接触する、交わる、結合するといった意味をもつ。ベースボール型では、バットがボールをとらえる瞬間をコンタクト（接触）とい

い、このコンタクトを行うために、投球されたボールのコースとタイミングとを一致させるといった技術をミートとしている。<sup>9) 10)</sup>

しかし、一般的には「バットの芯をとらえる」「的確な打撃」といった高度な技術を意味するものであるが、本授業では初めてバットを振るといった生徒も多数いることから、バットを振るタイミングとボールをとらえる打点の調整によって、ボールにかすっている状態からボールの芯を捉えるまでの幅をミート「当たる（ファールも含む）」とする。時間の一致には、リズムのカウントを行うこと。空間の一致には、バットのスイートスポットに印を付けることを行う。

### (3) 「フォームに」必要な要素とは

#### ア 大きな動作

どんなタイプの選手であろうが、全てに共通するのは“大きなスイング”である。そして、自分のミートポイントに向かって一直線にバットを出していき、ミートポイントでボールをとらえたら、あとはバットをほども感覚でフォロースルーに入る。フォロースルーはできるだけ大きい方がよい。これは打者の持っているパワーや役割に関わらず、バットを正しく振るといふことの基本だと考えられる。そして、このスイングが身に付けられればどんなに体格が小さな打者でも、強く鋭い打球、飛距離の出る打球を打ち返すことができる<sup>11) 12)</sup>としている。

このことから、大きな動作を身に付けることをフォームに必要な要素とする。

#### イ 正確な動作

一連のバッティングフォームには、さまざまな動作によって作られている。この分割されたフォームはさまざまな体の動きから成り立っているが、スイングは、大きく言うと6つに分けられる。最初の構えを作るセットアップをはじめ、トップ、振りだし、アプローチ、インパクト、フォロースルーがそれである。

セットアップとは、グリップの高さやスタンスの形や幅など、その人にフィットする自然体な構えである。バッティングには2テンポと3テンポの2通りのタイミングの取り方があり、野球では通常3テンポで打つが、投手と打者の距離が短いソフトボールでは2テンポで打つのが一般的である。まず、1でテイクバックをとっておく。これを「トップの位置」といい、2でスイング開始からミートまでを一気におこなう。ただし、バットが出やすく、かつ、ステップがとりやすいことが不可欠である。

トップとは、構えの姿勢から体重を軸足に残しつつステップすること。その間に、打球モーションに合わせるためのバックスイングがある。バックスイングをとることで体重移動がスムーズになる。この時、インパクトで最大限の力を発揮するため、軸足に体重がかけられた状態をいう。

振りだしとは、リリースの直前にテイクバックに入り、体重を後ろ足に残しつつステップの始動をすることである。ここでの基本は、まずボールをよく見る。さらに、どっしりとした構えであることが大切である。

アプローチとは、腰の回転でバットを引き出しながら、体重を前足に移動することである。

インパクトとは、ボールがバットに当たることで、頭を動かさずに腰を水平に回転させ、いかに速く自分のミートポイントでバットを振るかにある、としている。<sup>13) 14) 15) 16)</sup>

このようにバッティングフォームは、さまざまな動作により構成されており、一つ一つを身に付けていくことにより正確なフォームが完成することになる。このことから、正確な動作を身に付けることをフォームに必要な要素とする。

授業で行うフォームの指導では、最大のテイクバックから最大のフォロースルーまでの動きの中に、水平にバットが振れていること、手首の返しが行われている状態があることを共通の課題とした。具体的には、スイングの軌道（スイングの軌道が肩の位置からでている）、グリップの位置（へそをピッチャーの方向へ向けてバットが振れ、頭が残っている）、連動した全身の動き（重心移動をし、バットを振り終えた後も軸がぶれ



ていない) が備わっていることとする。

#### 4 「打撃の充実感」とは

運動感は、「資質としての運動感」と「体験としての運動感」の2つに分けられる。前者は、運動を状況に応じて素早く対応させたり、新しい運動を即座に習得したりする能力を意味する。後者は、ある運動を実際に行ったときに生じる運動体験の一部と解される。体験としての運動感<sup>17)</sup>は運動の遂行にともなって生じる快や不快の感情と、運動の遂行の仕方いかんにかかわらず、結果に対して生じる快や不快の感情に分けられる。うまく協調して行われた運動で体験される運動感<sup>17)</sup>は、とくに運動学習において重要な役割を果たす。

このことから、本研究においては、体験としての運動感における運動の遂行にともなって生じる「気持ちよさ」の快を「心地よさ」とし、運動の遂行の仕方いかんにかかわらず、結果として生じる「前よりできるようになった」「よい当たり(遠く、勢い)になってきた」等の快を「上達感」とする。この「心地よさ」と「上達感」から「打てそうな気がする」感じを「打撃の充実感」とする。

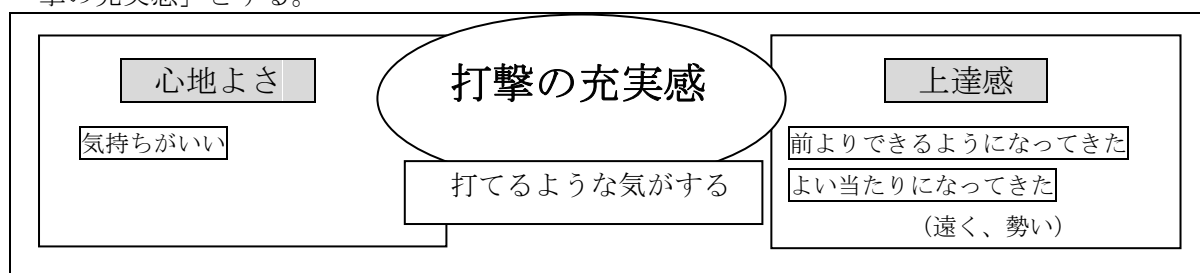


図2-2「打撃の充実感」

不確実なバット操作が、学習を進めることで確実になることにより、生徒は上達感をもちボールを打つ中で心地よい運動感を体験できれば、「打撃の充実感」を味わうことができると考える。

#### 5 学習の方法

##### (1) ヴィゴツキーの最近接領域<sup>18)</sup>

人間の認知機能には社会的・文化的なものを媒介として発達すると考え、認知の発達は以下に示す3段階で発達すると考える。

##### 認知発達の段階

- ア 対象的行為の段階 (直接、対象に働きかけることによって発達する段階)
- イ 精神間機能の段階 (大人とのコミュニケーションを通して発達する段階)
- ウ 精神内機能の段階 (個人が独力で内的に行える段階)

##### 最近接領域

ヴィゴツキーは、子どもの知的発達を2つの水準に分けて考えることを提唱した。1つは、他者の援助なしに、自力で遂行可能な現在の発達の水準であり、もう1つは、大人や仲間の援助によって問題解決が可能になる発達の最近接領域というものである。個々の発達状況は、現在の発達水準だけで決定されるのではなく、発達の最近接領域を考慮しなければならない。また、教育の可能性は発達の最近接領域に基づいて行わなければならないとする。

##### 最近接領域説の特徴

認知の発達<sup>18)</sup>は、大人との社会的相互作用を通して行われ、それが次第に個人の中で行なわれるようになる。このことから、本研究においては、一人一人の能力に応じた学習課題を学習過程や場の工夫により、最近接領域となるよう設定することで、教師や仲間の援助によって、課題解決が可能となると考える。

## (2) 学習過程モデル

学習過程とは、生徒が教師の学習支援（はたらきかけ）により、自分の力に合った学習課題（めあて）をもち、その課題（めあて）を達成、追及しながら、次時の課題（めあて）をもつといったような順序性のある生徒の活動を、主体的に形成された学習プロセスという。具体的な学習過程のモデルとして、二つが示されている。<sup>19)</sup> (表2-1)

表2-1「学習過程モデル」

モデルA	めあて1－めあて2と表され、主に器械運動のような個人的な運動に適用されている。めあて1では、今できる技を練習し、めあて2では、努力すればできそうな技に挑戦するといったスパイラル型の学習である。
モデルB	ねらい1－ねらい2と表され、主にボール運動のような集団的な運動に適応されることが多い。ねらい1では、簡単なルールでゲームをし、ねらい2では、対戦チームを選んだり、ルールや作戦を工夫したりしてゲームをするというステージ型の学習である。

よって本研究では、生徒に基本動作を身に付け、身に付いた力を豊富なゲーム経験を生かした学習へ発展させることを考え、モデルBの学習過程で行う。

## (3) グループ学習

グループ学習とは、学級をいくつかの集団に分け、小さなグループで共同学習を行わせようとする学習形態である。一斉授業のように受動的になりがちな学習形態を避け、学習者の自発的、主体的な学習活動を重視しようとするものである。そのために、小集団を便宜上分けるのではなく小集団内の成員の間に相互作用が生まれ、共通の目標をもち、互いに役割を果たしながら学習活動に参加できるように工夫する必要がある。この点が、一斉授業の一形態といわれている班別指導と異なる点である。<sup>20)</sup>

よって本研究では、グループ同士の力を均等化するために、能力や適性を踏まえた小集団グループでの学習活動を実践する。

## (4) 教え合い・かかわり合い

### ア 教え合い・かかわり合いの関係について

「教える」ということは、どうしてもできる子ができない子（技術レベルが低い）に教えてやる」という意味にとらえられてしまう。いわゆる縦の関係である。これを対等平等な関係にするには、できない子どもでも「教える」ことができるように仕組むことと、「教えた」ことによって自分自身の認識が深まり、でき具合が高まる必要がある。そのような事実がたくさん出てきたとき、できる子とでき具合の低い子との関係が横のつながりとなり、生活の場を一つにしている人間同士がその時間・空間を「ともに生きる」ことになる。<sup>21)</sup>

### イ 子どもたち相互のかかわり合い

一人一人の子どもたちを、運動学習の主体者として育てるためにこそ、学習集団への着目が必要なのである。一人がまさに一人でできるようになるためにこそ、集団が要請され、集団の組織が必要となる。一人でやりきる自立した主体的な力は集団の中でこそ有効に促進されていくのである。一人一人が育っていく学習集団は分かる子どもとまだ分からない子どもが、さらに分かり方やでき方に違いのある子どもが、相互に、また集団的に「問い・求め・かかわり合う関係」をつくりあげることによって形成されていく。<sup>1)</sup>

よって本研究では、バット操作を身に付けるにあたり、スキルアップシートなどを活用しながら、生徒相互のかかわり合いをもたせ、対等・平等な関係で主体的に活動させることにする。

## 6 打撃に着目する必要性

「ボールがこなくてつまらなかった」という生徒の声は、球技でよく耳にする言葉である。しかし一方では、「ボールがなるべくこない場所がいい」と、授業の初めから終わりまで、ずっとコートやグラウンドの目立たない所にいるような生徒もいる。このように、取り組む生徒の意識には大きな差がある。ベースボール型の授業に苦手意識をもつ原因として考えられることは、ゲームを行うのに必要なルールや戦術が他種目と比較して非常に複雑であることや、打つ・捕る・投げる・走るといった、個人の技術が習得できないことなどが挙げられる。守備の場面では、エラーをカバーすることができるが、打撃の場面では一人でボールに向かわなければならない。だからこそ、打てるようにすることが苦手意識をなくし、ベースボール型の楽しさを味わえる大きな要因であると考えられる。そして、技術を習得し、ヒットを打ったり打点を上げたりすることが生徒にとって充実した場面として受け止められれば、さらに打撃に対して関心をもち、意欲が高まるのではないかと考える。

また、ゲームは、打ったボールがフェアグラウンドへ入ることによって始まる。そのためにはフェアグラウンドに打つことが必須であり、空振りやファールといったボールが前に飛ばない状況では、ゲーム展開につながらない。プロ野球等で見られる投手戦や完全試合も、確かに素晴らしい技術があつてのものだが、授業で求められる「ベースボール型の特性を味わう」といったこととは異なる。したがって、打つことにより走者を進め得点する楽しさ、打者や走者を進ませずアウトにするといったゲーム展開の楽しさを生徒に味わわせるためには、フェアグラウンドに打つことが必須であると考えた。その上で「ベースボール型」の特性を打つことにより生み出されたゲーム展開に発展させていくことで、生徒は攻撃面だけでなく守備面についても、さまざまな課題解決に順次取り組んでいくであろうと考える。

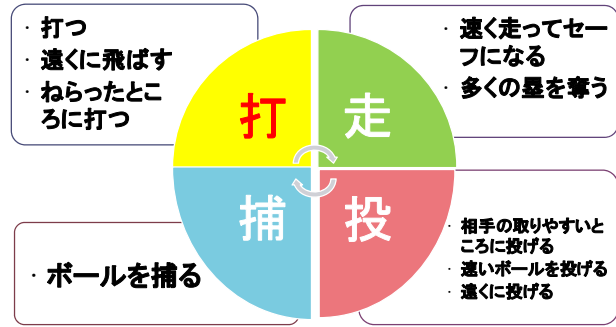


図2-3 「ベースボール型の技能特性」

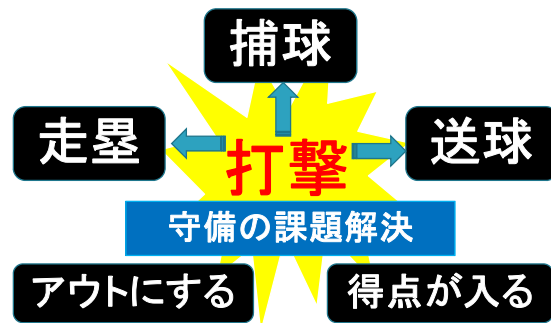


図2-4 「打撃からのゲーム展開」

## 第3章 検証授業

### 1 研究の仮説

- (1) 投球ボールが選択できる場の工夫により、ミートするバッティングが身に付くであろう。
- (2) 段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付くであろう。
- (3) 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができるであろう。

### 2 検証の方法

- (1) **期間** 平成21年9月28日(月)～11月25日(水) (13時間扱い)
- (2) **場所** 相模原市立大野北中学校
- (3) **対象** 第2学年女子3・4組40名
- (4) **単元名** ベースボール型「ソフトボール」
- (5) **方法**
  - ア 単元学習指導計画立案
  - イ 実態調査と分析 (実態調査や事前・事後アンケートなど)
    - (ア) 実態調査 7月29日(水)
    - (イ) 事前アンケート 9月25日(金)
    - (ウ) 事後アンケート 11月25日(水)
  - ウ 授業実践
  - エ 学習カードの分析 (毎時)
  - オ 映像による分析
  - カ 結果の分析
- (6) **分析の視点と方法**

**表3-1 分析の視点と方法**

分析の視点	具体的な分析の観点と方法
<p>(1) 投球ボールが選択できる場の工夫により、ミートするバッティングが身に付いたか。</p>	<p>ア 自分の能力に合った投球ボールを選択できたか (ア) 事後アンケートによる分析 (イ) 学習カードによる分析</p> <p>イ 選択したボールをミートすることができたか (ア) 事前・事後アンケートの比較による分析 (イ) 学習カードによる分析</p> <p>ウ 各種投球ボールをミートすることができたか (ア) 事前・事後のスキルテストの比較による分析</p>
<p>(2) 段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付いたか。</p>	<p>ア 各段階の学習に取り組むことができたか (ア) 事後アンケートによる分析 (イ) スキルアップシートによる分析 (ウ) 学習カードの感想による分析</p> <p>イ 大きくて正確なフォームを身に付けることができたか (ア) 事前・事後アンケートの比較による分析 (イ) 全生徒の映像による比較分析 (ウ) 抽出生徒の映像による分析</p>
<p>(3) 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができたか。</p>	<p>ア 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができたか (ア) 事前・事後アンケートの比較による分析 (イ) 学習カードによる分析 (ウ) 事後アンケートの感想による分析</p>

### 3 学習指導計画

#### (1) 単元の目標

##### ア 「運動への関心・意欲・態度の内容」

ベースボール型の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように取り組もうとする。また、お互いを尊重するなどフェアなプレイを守ろうとすることや、互いに分担した役割やチームの課題解決に向けて自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いを通して学習の援助をしようとする。さらに練習場や用具の安全・体調の変化に留意して練習や競技をしようとする。

##### イ 「運動についての思考・判断の内容」

運動の技術を身に付けるために、自己やチームの課題を見付けたり、課題に応じた練習方法やポイントを選ぶことができるようにする。また、仲間と役割に応じた協力の仕方や、運動を安全に行うための方法を選ぶことができるようにする。

##### ウ 「運動の技能の内容」

基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開できるようにする。

##### エ 「運動についての知識・理解の内容」

ベースボール型の特性や学習の進め方、技術の名称や具体的な行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、試合におけるルールを言ったり、書き出したりできるようにする。

#### (2) 評価規準

##### ア 内容のまとめりごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるよう積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすることや分担した役割を果たそうとすること、作戦などの話し合いなどに参加しようとする。また、健康・安全に気を配ろうとする。	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できる。	球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解している。

##### イ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
ベースボール型の特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わえるように取り組もうとする。また、お互いを尊重するなどフェアなプレイを守ろうとすることや、互いに分担した役割やチームの課題解決に向けて自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いを通して学習の援助をしようとする。さらに練習場や用具の安全・体調の変化に留意して練習や競技をしようとする。	運動の技術を身に付けるために自己やチームの課題を見付けたり、課題に応じた練習方法やポイントを選んでいる。また、仲間と役割に応じた協力の仕方や運動を安全に行うための方法を選んでいる。	基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができる。	ベースボール型の特性や学習の進め方、技術の名称や具体的な行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、試合におけるルールを言ったり書き出したりしている。

ウ 学習場面における具体の評価規準と具体の学びの姿、及びC・C<sup>△</sup>の生徒への手立て

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
A <sup>○</sup>	①②③④⑤⑥常に自主的に～	①②③④～適切に見付けている。	①常に正確に～ ②③⑤⑥⑦～スムーズに正確にできる。 ④常にタイミングを合わせて～	①②③④～具体的な例を挙げて説明している。
A	①②③④⑤⑥自主的に～	①②③④～見付けている。	①正確に～ ②③⑤⑥⑦～正確にできる。 ④タイミングを合わせて～	①②③④～説明している。
B	①勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、積極的に取り組もうとする。 ②ルールやマナーを守ったり、相手の健闘を認めたりして積極的にフェアなプレイを守ろうとする。 ③練習やゲームで分担した役割に積極的に取り組もうとする。 ④チームの課題解決に向けて自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いに参加しようとする。 ⑤球出しなどの補助をしたり、仲間の学習を積極的に援助したりしようとする。 ⑥体調の変化などに気を配り、積極的に自己や仲間の安全に留意する。	①今もっている自分の能力に適した目標設定をし、それにあつた課題を選んでいる。 ②自己や仲間の課題を解決するための練習方法を選んでいる。 ③チームの状況に合った作戦や練習方法を選んでいる。 ④仲間と役割に応じた協力の仕方を選んだり、安全上の留意点を練習や試合に当てはめたりしている。	①基本となるバットの握り方と構え方ができる。 ②タイミングと場所を合わせてミートすることができる。 ③技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。 ④次の塁をねらって全力で走ることができる。 ⑤基本となるグラブの使い方でボールを投げたり捕ったりできる。 ⑥決められた位置で打球や送球などに備える準備姿勢で構えることができる。 ⑦自分の能力に応じたボールをミートしたり、技術ポイントを押さえたりしてバットを振ることができる。	①ベースボール型の特性や成り立ちを言ったり書き出したりしている。 ②技術の名称や行い方を言ったり書き出したりしている。 ③関連して高まる体力を言ったり書き出したりしている。 ④試合のルールや行い方を言ったり書き出したりしている。
C	①②③④⑤⑥～しないときがある。	①～適さない課題を選んでいる。 ②③～適さない練習方法を選んでいる。 ④選んだりあてはめたりできないときがある	①②③④⑤⑥⑦～できないときがある。	①②③④～言ったり書き出したりできないときがある。

C <sup>△</sup>	①②③④⑤⑥ ～しない。	①②③～選べない。 ④選んだりあてはめ たりできない。	①②③④⑤⑥⑦ ～できない。	①②③④ ～言ったり書き出し たりできずにいる。
C C <sup>△</sup> の 生徒 への 手立 て	<p>①興味をもてない生徒には、なぜ興味をもてないのかを明らかにして学習の目標を説明する。</p> <p>②楽しさや安全性・公平性を確保するには、ルールやマナーを守ることが大切であることを伝える。</p> <p>③分担した役割に責任をもち、協力する雰囲気作りをする。</p> <p>④学習カードの記録や感想の内容など、記述したことを参考にしよう助言する。</p> <p>⑤仲間と協力することで学習の効率が上がったり、気持ちよく活動することにつながったりすることを伝える。</p> <p>⑥健康や安全に活動することの大切さをその都度説明する。</p>	<p>①具体的に良い点や課題点を指摘して、自分に合った課題をもてるようにする。</p> <p>②自己を振り返る視点を具体的に示し、今、取り組んでいることが適切かどうかにも考える。</p> <p>③技能に合わせてより効率的な練習方法について一緒に考え、具体的に示しながら選ばせる。</p> <p>④仲間の課題や解決方法などを参考にしながら例示する。</p>	<p>①見本を見せながら一緒に行く。</p> <p>②タイミングと場所を合わせられるように助言を行い、適切な目標を立てるよう支援する。</p> <p>③スキルアップシートを使い、仲間へアドバイスしてもらおう。</p> <p>④直線的な走りではなくベースを回る際には体を内側に傾けて方向を変えるように助言する。</p> <p>⑤近距離から投球したり緩やかなボールを捕球することで、グラブの使い方慣れる練習をする。</p> <p>⑥準備姿勢からフットワークを使い、状況に応じた動きの反復練習をする。</p> <p>⑦つまづいているポイントを明確にして、系統を立てて段階的に練習するよう助言する。</p>	<p>①～④ つまづいている内容について具体的な資料を提示したり、説明したりしながらその内容が言えるようにする。</p>

### (3) 指導と評価の計画

時 間	学習のねらいと活動	学習活動における 具体的評価規準				評価内容と方法	
		関 心 意 欲 態 度	思 考 判 断	運 動 の 技 能	知 識 理 解		
はじめ (1時間目)	<b>1 オリエンテーション</b> ・学習のねらいと進め方 ・学習の約束等の確認 ・特性の理解 ・学習カードの説明 <b>2 事前スキルテスト</b> ・バッティングのスキルテスト	⑥			①	<b>【関心・意欲・態度】</b> ⑥体調の変化などに気を配り、自己や仲間の安全に留意する。 (観察・学習カード) <b>【知識・理解】</b> ①ベースボール型の特性や成り立ちを言ったり書き出したりしている。 (観察・学習カード)	
なか1 (2時間目～8時間目)	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>ねらい1</b>  <b>基本動作を身に付ける</b> </div> <b>1 準備運動</b> ・ベースランニング ・キャッチボール ・体操 <b>2 ボール操作</b> ①送球 ・スローイング ・フォロースルー ②捕球 ・グラブさばき ・キャッチ ・フットワーク ③投球 ・ファストピッチ (スリングショット投法) (ウインドミル投法) <b>3 バット操作</b> ①バットの握り方 ②ミート練習 ・ティーボール ・トスボール ・スローボール ③フォーム練習 ・ミニスイング ・ハーフスイング <b>4 簡易ゲーム</b> ①満塁からのゲーム 『ミニスイング、三角ベース』 ○スキルアップシートや仲間からのアドバイスを活用し、タイミングよくミートする。 ②ランナー1塁からのゲーム 『ハーフスイング、通常ベース』 ○タイミングと場所を合わせて、指定されたエリアにボールをバウンドさせる。 <b>5 振り返り</b>	⑤		③	②	①	<b>【関心・意欲・態度】</b> ⑤球出しなどの補助をしたり、仲間の学習を積極的に援助したりしようとする。 (観察・学習カード) ③練習やゲームで分担した役割に積極的に取り組もうとする。 (観察・学習カード) ②ルールやマナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとする。 (観察・学習カード) ①勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、積極的に取り組もうとする。 (観察・学習カード) <b>【思考・判断】</b> ①今もっている自分の能力に適した目標設定をし、それにあった課題を選んでいる。 (観察・学習カード) ②自己や仲間の課題を解決するための練習方法を選んでいる。 (観察・学習カード) <b>【運動の技能】</b> ①基本となるバットの握り方と構え方ができる。 (観察・学習カード) ⑤基本となるグラブの使い方やボールを投げたり捕ったりできる。 (観察・学習カード) ②タイミングと場所を合わせてミートすることができる。 (観察・学習カード) <b>【知識・理解】</b> ②技能の名称や行い方を言ったり書き出したりしている。 (観察・学習カード)



時 間	学習のねらいと活動	学習活動における 具体の評価規準				評価内容と方法
		関 心 意 欲 態 度	思 考 判 断	運 動 の 技 能	知 識 理 解	
な か 2 (9時間目 ～ 12時間目)	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>ねらい2</b>  <b>身に付けた力でゲームを楽しむ</b> </div> <p><b>1 準備運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベースランニング</li> <li>・キャッチボール</li> <li>・体操</li> </ul> <p><b>2 ボール操作</b></p> <p>①送球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローイング</li> <li>・フォロースルー</li> <li>・塁間のボール回し</li> </ul> <p>②捕球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フットワーク</li> <li>・ゴロ、バウンド</li> </ul> <p>③投球</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファストピッチ (スリングショット投法)</li> <li>・ウインドミル投法)</li> </ul> <p><b>3 バット操作</b></p> <p>①ミート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーボール</li> <li>・トスボール</li> <li>・スローボール</li> </ul> <p>②フォーム練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハーフスイング</li> <li>・フルスイング</li> </ul> <p><b>4 簡易ゲーム</b></p> <p>①フリーバッティングゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローピッチで1人3球</li> <li>・守備がボールを捕球した位置で得点</li> </ul> <p>②投球ボール選択ゲーム</p>	④				<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>④チームの課題解決に向けて自らの考えを述べるなど話し合いに参加しようとする。 (観察・学習カード)</p> <p>【思考・判断】</p> <p>④仲間と役割に応じた協力の仕方を選んだり、安全上の留意点を練習や試合に当てはめたりしている。 (観察・学習カード)</p> <p>③チームの状況に合った作戦や練習方法を選んでいる。 (観察・学習カード)</p> <p>【運動の技能】</p> <p>③技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。 (観察・学習カード)</p> <p>④次の塁をねらって全力で走ることができる。 (観察・学習カード)</p> <p>⑥決められた位置で投球や送球などに備える準備姿勢で構えることができる。 (観察・学習カード)</p> <p>⑦自分の能力に応じたボールをミートしたり、技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。 (観察・学習カード)</p> <p>【知識・理解】</p> <p>④試合のルールや行い方を言ったり書き出したりしている。 (観察・学習カード)</p>
ま と め (13時間目)	<p><b>1 スキルテスト</b></p> <p>①バッティングのスキルテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーボール</li> <li>・トスボール</li> <li>・スローボール</li> </ul> <p><b>2 学習の振り返り</b></p> <p><b>3 単元の振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体を振り返り、学習のまとめを行う。</li> <li>・チームや自分の成長を振り返る。</li> </ul>				③	<p>【知識・理解】</p> <p>③関連して高まる体力を言ったり書き出したりしている (観察・学習カード)</p>

時間	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	ねらい1 ー基本動作を身に付けるー						
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいや進め方を理解することができる。</li> <li>健康や安全に留意することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なバット操作、ボール操作等について理解することができる。</li> <li>スキルチェックの結果により課題を見付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間の学習を援助しながら学習を進めることができる。</li> <li>自己や仲間の課題を解決するための練習をすすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なグラブの使い方ができる。</li> <li>フェアプレイを守り積極的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイミングと場所を合わせてミートする打撃ができる。</li> <li>練習やゲームで分担した役割に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なグラブの使い方ができる。</li> <li>フェアプレイを守り積極的に取り組むことができる。</li> </ul>
<b>各自の技術に応じた「ティーボール」「トスボール」「スローボール」での課題学習</b>							
指導ポイント	共通ポイント		タイミングを合わせる	場所を合わせる	自分に合ったボール選択		
	基本動作		ミニスイング	ハーフスイング			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グリップの握り</li> <li>②スタンス</li> <li>③ステップ④ひねり</li> <li>⑤水平に振る (共通)</li> <li>⑥手首を返す (共通)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①スイングの軌道が腰の位置からでている</li> <li>②手の甲を上や正面にして構えている</li> <li>③上体のひねりを使っている</li> <li>④水平にバットが振れている (共通)</li> <li>⑤手首を返す (共通)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①スイングの軌道が胸の位置からでている</li> <li>②手の甲をピッチャーへ向けて構えている</li> <li>③肘と膝が同時に動き出している</li> <li>④水平にバットが振れている (共通)</li> <li>⑤手首を返す (共通)</li> </ul>			
10	1 整列・あいさつ・出席確認 2 準備運動 (ベースランニング・キャッチボール) 3 本時のねらいの確認 4 学習カード記入						
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいと進め方</li> <li>学習の約束等の確認</li> <li>特性の理解</li> <li>学習カードの説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送球・補球</li> <li>ボールを受ける前の準備姿勢</li> <li>キャッチ</li> <li>スローイング</li> <li>フォロースルー</li> <li>打撃</li> <li>基本動作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送球・補球</li> <li>スローイング</li> <li>グラブさばき</li> <li>打撃</li> <li>ミニスイング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送球・捕球</li> <li>スローイング</li> <li>グラブさばき</li> <li>打撃</li> <li>ミニスイング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打撃</li> <li>ハーフスイング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投球・補球</li> <li>①ピッチング (ファストピッチの投球)</li> <li>・スリングショット、ウインドミルの投法</li> <li>②フットワーク</li> <li>・体の正面での捕球</li> <li>打撃</li> <li>・ハーフスイング</li> </ul>	
15	事前スキルテスト	バット操作		簡易ゲーム①	簡易ゲーム②	ランナー1塁からのゲーム	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>バットイング</li> <li>ティーボール</li> <li>トスボール</li> <li>スローボール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バットの握り方</li> <li>バットの振り方</li> <li>体重移動の仕方</li> <li>ボールのとらえ方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォームチェック</li> <li>ミニスイング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニスイング</li> <li>三角ベース</li> <li>ティースタント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハーフスイング</li> <li>通常ベース</li> </ul>		
5	学習の振り返り・学習カードへの記入・自己評価・次回の確認 (目標設定)・挨拶						

時間	8	9	10	11	12	13	
ねらい	ねらい1 ・ タイミングと場所を合わせてミートすることができる。 ・ 練習やゲームで分担した役割に取り組みることができる。	ねらい2 一身に付けた力でゲームを楽しむー ・ 技術ポイントを押さえてバットを振ることができ。 ・ 役割に応じた協力や、練習や試合での安全に留意することができる。	10 ・ チームの課題解決に向けた話し合い等の取組ができる。 ・ 試合の行い方や、ルールを理解する。	11 ・ チームの状況に合った作戦や練習方法に取り組み。 ・ 打球や送球に備えた準備姿勢を行うことができる。	12 ・ 自分の能力に応じたボールをミートしたり、技術ポイントを押さえながらバットを振ることができる。 ・ 次の塁をねらって全力で走塁する。	13 ・ 学習のまとめとして仲間や自己を振り返り、技能向上や関連して高まる体力などを理解する。	
<b>各自の技術に応じた「ティーボール」「スローボール」「スローボール」での課題学習</b>							
指導ポイント	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">共通ポイント</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">場所を合わせる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分に合ったボール選択</div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ハーフスイング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">フルスイング</div> </div> <p>①スイングの軌道が胸の位置からでている ②手の甲をピッチャーへ向けて構えている ③肘と膝が同時に動き出している (共通) ④水平にバットが振れている (共通) ⑤手首を返す (共通)</p> </div>						
10	<p>1 整列・あいさつ・出席確認 2 準備運動 (ベースランニング・キャッチボール) 3 本時のねらいの確認 4 学習カード記入</p>						
20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">投球・捕球</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ピッチング (ファストピッチの投球)</li> <li>・ スリングショット、ウィンドミルの投法)</li> <li>②フットワーク</li> <li>・ 体の正面での捕球</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">打撃</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハーフスイング</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">送球・捕球</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塁間のボール回し</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">打撃</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フルスイング</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">走塁</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベースランニング</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">打撃</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フルスイング</li> </ul>	事後スキルテスト			
15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">簡易ゲーム②</div> <p>1 塁からのゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ハーフスイング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">通常ベース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ティースタンド</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">フリーバッティングゲーム</div> <p>フルスイング</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">投球ボール選択①</div> <p>ランナー1 塁からのゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">フルスイング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">通常ベース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ボール選択</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">投球ボール選択②</div> <p>ランナーなしのゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">フルスイング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">通常ベース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ボール選択</div>	<p>ランナーなしのゲーム → フルスイング → 通常ベース → ボール選択 → 三角ベース</p>		
5	学習の振り返り・学習カードへの記入・自己評価・次回の確認 (目標設定)・挨拶						

## (5) 指導の工夫

### ア ミートするための指導の工夫

#### 【投球ボールの選択】

ボールとバットのズレを一致させることを目的に、投球ボールを選択させ、静止している状態のティーボールから、動いている状態のトスボール、スローボールへと自分の能力に応じて選択させる。生徒は5本中4本以上ミートすることができれば、次のステップへと課題を変えて取り組むか、現状の段階に留まって練習を行うかを選択することができるようにさせる。

#### 【リズムのカウント】

「1」でテイクバック、「2」でフォロースルーと、声を出してリズムをカウントさせ、タイミングをとらせる。

#### 【バットに印】

構える前に、ティースタンド上のボールと自分の位置とを合わせ、バットのスイートスポットに印をつけ、その場所に当たるまでしっかりとボールを見させる。



### イ フォームを身に付けるための指導の工夫

#### 【段階的な指導】

スイングの状態が小さいミニスイングから、ハーフスイング、フルスイングへと段階的に取り組ませ、フォームの質を高めさせる。

#### 【スキルアップシート】

スキルアップシートを使ってスキルチェックを行わせる。単に5本のうち何球当てることができたのではなく、当てるために必要なフォームに着目させ、技能ポイントを評価し合う。また、互いにアドバイスを行わせることで、自分のフォームを客観的に確認させる。

### ウ 学習カード

本時の学習内容や自己評価、感想等、生徒が学習の見通しをもてるように作成する。できるだけ生徒の負担にならないように、感想欄の他は、数字や○を書き入れるだけの簡易なものとする。

### エ 場・人数

ベースボール型の課題である運動量を確保するために、1チームを5人編成とする。また、打撃練習では待ち時間がないように、活動場所をなるべく多く設定したり、ゲームでは常に試合ができるようにコートを4カ所に設置したりする。

### オ 簡易ゲーム


特定の状況によって生徒の意識を焦点化させ、攻撃・守備ともに求められる課題を明確にさせる。

- ・満塁からのゲーム
- ・ランナー1塁からのゲーム
- ・ランナーなしのゲーム
- ・フリーバッティングゲーム
- ・投球ボール選択ゲーム

#### 4 授業の実際

13 時間扱いの 1 時間目	平成 21 年 9 月 28 日 (月) 第 4 校時 (2 年 3・4 組)
ねらい 1 基本動作を身に付ける。	
本時のねらい (1) 学習のねらいや進め方を理解することができる。 (2) 健康や安全に留意することができる。	

#### 学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
15分	はじめ	<p>ー学習内容ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベースボール型とは身体やバットの操作と走塁などの攻撃により、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手より多くの得点を競い合うゲームであること。</li> <li>○学習を円滑に進めるには、学習のねらいを理解し、学習ノートを有効に活用すること。</li> <li>○健康や安全に留意するには、自己の体調の変化に気を配ったり、用語や場所等の安全を確認したりしながら、練習やゲームを行う。</li> </ul> <p>1 集合、出席確認、挨拶</p> <p>2 <b>オリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいや進め方</li> <li>・ルールやマナー</li> <li>・学習カードへの記入の仕方</li> <li>・ベースボール型の特性</li> <li>・用具等の安全への配慮</li> </ul> <p>3 <b>準備運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ</li> <li>・キャッチボール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、出席確認を行う。</li> <li>・生徒の健康状態を確認する。</li> <li>・安全には十分に配慮するように声かけや場づくりをする。</li> <li>・ベースボール型の特性やねらいを説明し、けがや故障が発生しないように準備運動を入念に行うこと。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>⑥健康や安全に活動することの大切さを、その都度説明する。</p>	 <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑥体調の変化などに気を配り、自己や仲間の安全に留意する。 (観察・学習カード)</p>
30分	なか	<p>4 <b>スキルテスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎にバッティングのスキルテストに取り組む</li> <li>・計測、記入、ローテーションの仕方の説明</li> <li>①ティーボール</li> <li>②トスボール</li> <li>③スローボール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に気付くように助言する。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>①つまづいている内容について具体的な資料を提示したり、説明したりしながらその内容が言えるようにする。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>①ベースボール型の特性や成り立ちを言ったり書き出したりしている。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返る</li> <li>・学習カードへ記入</li> </ul> <p>6 次回の確認</p> <p>7 挨拶・片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の学習の流れを提示し各自のめあてをもたせる。</li> <li>・わからないことを全体の場で共有する。</li> </ul>	


#### <授業者による振り返り>

学習のねらいや進め方を学習ノートで説明したが、生徒たちは話をよく聞き理解しようとしていた。グループ単位でスキルテストを行い、ティーボール・トスボール・スローボールのバッティングに取り組んだが、ほとんどの生徒がバットを振ることが初めてであり、また、事前練習がない状態でのテストだったため、ボールを迎えに行くようなバット操作が目立った。生徒の学習ノートでは「振ると当たらないけど、止まったまま当てるだけにすると当たる。」といった記述や、「ボールをよく見て打つと、当たる確率が上がることが分かった。」「タイミングが合わなかった。」といった感想が多かった。今後、スキルテストの数値や生徒の気付きなどから適切なアドバイスをを行い、自分のバッティングフォームを見直す指導、支援をしたい。

ねらい 1 基本動作を身に付ける。

本時のねらい  
 (1) 基本的なバット操作、ボール操作について理解することができる。  
 (2) スキルテストの結果により課題を見付けることができる。



学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動	・生徒の健康状態を確認する。 ・教科書を使い基本動作や名称を理解する。	
35分	なか	<p>－学習内容－</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的なバット操作には、バットの握り方、振り方、体重移動の仕方、ステップ、キャッチング、スローイング、フォロースルー等があること。</li> <li>○ボール操作には準備姿勢、キャッチング、スローイング、フォロースルー等があること。</li> <li>○自分の能力に適した課題を設定するために、スキルアップシートを活用し、正確な動作をしているかグループのメンバーと助言し合うこと。</li> </ul> <p>4 <b>基本動作と課題設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ単位でバッティングの基本姿勢を学び、互いの技術を確認し合う。</li> <li>① <b>バッティング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 バットの握り方、振り方</li> <li>2 体重移動</li> <li>3 ボールのとらえ方</li> </ul> </li> <li>・タイミングを合わせてバットを振り抜きボールを打ち返す。</li> <li>・体の回転を利用してボールの中心にバットを当てる。</li> <li>② <b>送球・捕球</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを受ける前の準備姿勢</li> <li>・キャッチング</li> <li>・スローイング</li> <li>・フォロースルー</li> </ul> </li> </ul>	<p>・基本動作がうまくできない生徒に対して、グループ内で確認をし、教師が巡回して説明する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;                  ①見本を見せながら一緒に行う。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;                  ②つまづいている内容について具体的な資料を提示したり、説明したりしながらその内容が言えるようにする。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;                  ①具体的に良い点や課題点を指摘して、自分に合った課題をもてるようにする。</p> 	<p><b>【運動の技能】</b>                  ①基本となるバットの握り方と構え方ができる。                  (観察・学習カード)</p> <p><b>【知識・理解】</b>                  ②技能の名称や行い方を言ったり書き出したりしている。                  (観察・学習カード)</p> <p><b>【思考・判断】</b>                  ①今もっている自分の能力に適した目標設定をし、それにあった課題を選んでいる。                  (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 6 次回の確認 7 挨拶・片付け	・次回のゲームの内容を伝え、目標をもてるようにする。 ・決定したチームを確認する。	

<授業者による振り返り>  
 基本的なボール操作ではグラブをつけてキャッチボールを行った。グラブを逆の手にはめる生徒や、グラブをしているのに素手でボールを捕りに行くなどの不慣れさが目立った。安全面にもつながることなので、適宜指導していく必要を感じた。また、ゴロの捕球では腰の高さや股関節を開くといった動作が身に付いておらず、定着させるためには短時間であっても毎時間の継続した取組が必要だと思った。また、生徒を集合させて説明を行う際には、活動場所を有効に使いつつ、展開を早くするためのマネジメントが必要だと実感した。

13時間扱いの3時間目	平成21年10月7日(水)第4校時(2年3・4組)
ねらい1 基本動作を身に付ける。	
本時のねらい (1) 仲間の学習を援助しながら学習を進めることができる。 (2) 自己や仲間の課題を解決するための練習をすることができる。	

学習の流れ


		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動	・生徒の健康状態を確認する。 ・グループ内の打順やポジション、役割分担について説明する。	
35分	なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           ー学習内容ー            ○互いに学習を援助しながら、課題を解決するには、スキルアップシートを有効に活用すること。         </div> 4 <b>課題練習</b> ○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。 ①打撃(ミニシングのフォーム) ・テイクバックから水平にスイングし、フォロースルーまで一連の動きがスムーズに行うことを意識する。 ・記録者はフォームチェックをし、学習カードに記入する。 ②送球(スローイング) 5 <b>簡易ゲームの説明</b> ・チーム(5人編成) ・三角ベース ・打者一巡(2イニング)で交代 ・ランナー1塁から開始する ・内野(2名)外野(3名) ・記録者が記入したデータをもとにゲームを振り返り次回の作戦を立てる。	・スキルアップシートの説明を行い、グループで技能を高めるための重要性を指導する。 ・フォームチェックにより自分の課題を見付けるよう支援する。 <C、C△の生徒への手立て> ⑤仲間と協力することで学習の効率が上がったり、気持ちよく活動することにつながりすることを伝える。 <C、C△の生徒への手立て> ②自己を振り返る視点を具体的に示し、いま取り組んでいることが適切かどうかともに考える。 ・打点を点数化することで学習意欲を喚起する。 ・バッティングの見本を示し生徒にゲームの仕方を説明する。 ・分担した役割を果たし積極的にチームの活動に取り組みせる。	 <b>【関心・意欲・態度】</b> ⑤球出しなどの補助をしたり、仲間の学習を積極的に援助したりしようとする。 (観察・学習カード) <b>【思考・判断】</b> ②自己や仲間の課題を解決するための練習方法を選んでいく。 (観察・学習カード) 
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返っての感想からめあてをもたせる。 ・チームごとに整理運動をおこなわせる。	

<授業者による振り返り>

本時からミニシングへと取り組む予定であったが、雨天のため武道場での授業となった。そこで、次回から簡易ゲームに入るということもあり、授業の前半はルールの説明をメインに拡大紙を用いての設問方式で行った。どの生徒もゲームのルールを学習ノートにしっかりと記述し、次回のゲームに期待を膨らませていた。後半は武道場での狭いスペースということもあり、ペットボトルバットでの打撃練習を行った。ボールはウレタンボールとスポンジボールを使用し、2人1組で打撃練習を行ったが、互いにスイングの技術ポイントを言い合う姿が見られた。しかし、技術ポイントをチェックする生徒がしっかりとチェック項目を理解しているかは疑問であり、フォームを見取る目を養う必要性を感じた。さらな、雨天に備えてあらかじめ資料や動画等の準備も必要だと思った。特に初めてソフトボールを行う生徒においては、言葉で説明されたことと映像とを結びつけることでさらにイメージが深まるので準備をしていきたいと感じた。

13時間扱いの4時間目 平成21年10月9日(金)第5校時(2年3・4組)
ねらい1 基本動作を身に付ける。
本時のねらい (1) 勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動(ベースランニング)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康状態を確認する。</li> <li>学習カードのフォームチェックを参考にして本時の課題に取り組ませる。</li> <li>グループ内の役割分担を確認させる。</li> </ul>	
35分	なか	<p>ー学習内容ー</p> <p>○勝敗を競い合う楽しさを味わうには、フェアプレイを守り、互いに良いプレイを認め合うこと。</p> <p>4 <b>課題練習</b></p> <p>○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをしよう。</p> <p>①打撃(ミニスイング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スイング軌道が腰の位置からでている。</li> <li>手の甲を上や正面にして構える。</li> <li>上体のひねりを使っている。</li> </ul> <p>②送球(スローイング)</p> <p>③捕球(グラブさばき)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投げられたボールの位置によりグロブの向きを変えて捕る。</li> </ul> <p>5 <b>簡易ゲーム①『1日目』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チーム(5人編成)</li> <li>三角ベース</li> <li>打者一巡(2イニング)で交代</li> <li>ランナー1塁から開始する</li> <li>内野(2名)外野(3名)</li> </ul> <p>○チームでゲームを振り返って次回の作戦を立てるために具体的な課題解決方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイングフォームをチームでチェックし、個人の課題を見付ける手がかりとする。</li> <li>近距離から投球したり緩やかなボールを捕球することで、グラブの使い方に慣れさせる。</li> <li>打った後のバットは、必ずバット置き場に置くようにグループ内で声かけを行う。</li> <li>打球の方向に素早く体を向けて捕球者のところへ全力で走るように心掛けさせる。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>①興味をもてない生徒には、なぜ興味をもてないのかを明らかにして学習の目標を説明する。</p>	 <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>①勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、積極的に取り組もうとする。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームを振り返り次回の通常ベースのめあてをもてるようにする。</li> <li>チームごとに整理運動を行わせる。</li> </ul>	


<授業者による振り返り>

簡易ゲームは時間的には20分弱の活動だったが、5人でのチーム編成やランナー満塁からのゲーム展開にしたことで、攻撃・守備ともに十分な運動量があった。特に守備側においては、ランナーの進塁を抑えるために、ボールの動きに合わせてチーム一丸となり、声を掛け合いながら楽しく取り組んでいた。また、よいプレーにも互いに拍手を送るなど、フェアプレイを守り気持良く活動していた。



13時間扱いの5時間目 平成21年10月21日(水)第4校時(2年3・4組)
ねらい1 基本動作を身につける。
本時のねらい (1) 基本的なグラブの使い方ができる (2) フェアプレイを守り積極的にゲームに取り組むことができる。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動(ベースランニング) (キャッチボール)	・生徒の健康状態を確認する。 ・学習カードを参考にして本時の課題に取り組みさせる。 ・チーム練習の役割分担を確認させる。	
35分	なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○基本的にグラブの使い方は、ボールの動きに応じて捕球できるように、体の近くでは左肘を中心に、遠くは左肩を中心にして円を描くようにグラブを出すこと。         </div> <p>4 <b>課題練習</b></p> <p>○グループ内でペアを作り、キャッチボールをしながら基本となるグラブの使い方をチェックする。</p> <p>①送球(スローイング) ②捕球(グラブさばき) ③打撃(ミニスイング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイングの軌道が腰の位置からでている。</li> <li>・手の甲を上や正面にして構える。</li> <li>・上体のひねりを使っている。</li> <li>・「1(いち)」の発声でタイミングをとる。</li> <li>・バットの印を意識して当てる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○安全にゲームを楽しむには、ルールやマナーを守りフェアプレイを守ろうとすること。         </div> <p>5 <b>簡易ゲーム①『2日目』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム(5人編成)</li> <li>・三角ベース</li> <li>・打者一巡(1イニング)で交代</li> <li>・常にランナー満塁の状態から攻撃を行う</li> <li>・内野(2名)外野(3名)</li> </ul>	<p>・投げられたボールによってグラブの向きを変えて捕球できるように説明する。</p> <p>・スイングフォームをチームでチェックし、個人の課題を見付ける手がかりとするように助言する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;            ⑤近距離から投球したり緩やかなボールを捕球することで、グラブの使い方に慣れる練習をする。</p> <p>・近距離から投球したり、緩やかなボールを捕球することで、グラブの使い方に慣れさせる。</p> <p>・仲間や相手の素晴らしいプレイやフェアプレイを認め、互いに安全で気持ちのよい活動となるように支援する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;            ②楽しさや安全性・公平性を確保するには、ルールやマナーを守ることが大切であることを伝える。</p>	 <p><b>【運動の技能】</b>            ⑤基本となるグラブの使い方によってボールを投げたり捕ったりできる。            (観察・学習カード)</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b>            ②ルールやマナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとする。            (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返り、次回のめあてをもてるようにする。	

<授業者による振り返り>

3組がインフルエンザにより学級閉鎖となった。前回の反省を踏まえて、打撃練習ではチェック項目を見取りやすくするために足を合わせる場所にラインを引き、スタンスとミートポイントの確認と、テイクバック、フォロースルーの可動範囲に制限をつけた。それにより大振りや空振りは減少したが、生徒にとっては「思いっきり打ちたい」という感情を抑えることになり「当てたいけど、そのためには確実に当てるためのハーフスイング」といったジレンマに陥った。ゲームでは、どのチームも、前時より打球に集中して素早く身体を反応させていた。判定はセルフジャッジにて行ったが、チーム間で言葉を交わし得点を確認し合っていた。

13時間扱いの6時間目 平成21年10月22日(木)第4校時(2年3・4組)
ねらい1 基本動作を身に付ける。
本時のねらい (1) タイミングと場所を合わせてミートする打撃ができる。 (2) 練習やゲームで分担した役割に取り組むことができる。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 ・学習内容 3 準備運動(ベースランニング) (キャッチボール)	・生徒の健康状態を確認する。 ・ランナー1塁からのゲームから、個人やチームの課題を見付け、解決しながら学習することを確認する。	
35分	なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○ボールをしっかりミートするにはタイミングと場所を合わせること。            ○ハーフスイングでミートするには、スイングの軌道を胸の位置から出し、肘と膝が連動して動き出していること。         </div> 4 <b>課題練習</b> ○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。 ①打撃(ハーフスイング) ・手の甲を正面にして構える。 ・「1、2(いち、に)」の発声でタイミングをとる。 ・バットの印を意識して当てる。	・ミニスイングからハーフスイングへと、技術が発展する違いを理解できるように説明する。  <C、C△の生徒への手立て> ②タイミングと場所を合わせられるように助言を行い、適切な目標を立てるように支援する。  ・バットとボールの位置がズレている場合は、バットにつけた印を意識してスイングをおこない、当たる状態までバックスイングを小さくすること。	<b>【運動の技能】</b> ②タイミングと場所を合わせてミートすることができる。 (観察・学習カード)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○練習やゲームの進行などでは、記録や審判・キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に責任をもって取り組むことが大切なこと。         </div> 5 <b>簡易ゲーム②『1日目』</b> ・チーム(5人編成) ・通常ベース ・打者一巡(2イニング)で交代 ・ランナー1塁から開始する ・内野(2名)外野(3名)	<C、C△の生徒への手立て> ③分担した役割に責任をもち、協力する雰囲気作りをする。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ③練習やゲームで分担した役割に積極的に取り組もうとする。 (観察・学習カード)
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもてるようにする。 ・協力して準備や片付けができるようにする。	



<授業者による振り返り>

本時も3組が学級閉鎖のため、4組18名での活動となった。また、本時よりハーフスイングでの打撃練習に入った。授業も中盤に入り、授業の流れがつかめてきたことで、生徒の準備や活動も比較的スムーズに流れるようになり、ゲームでは用具を準備する人、得点を記入する人、コーチャーズボックスから指示を出す人等、各自が役割を自覚していた。打撃チェックでは、前回×がついた項目を意識して、タイミングと場所を合わせることに再度チャレンジする生徒がいる半面、友達の進捗に合わせてたり、段階を踏まずに大きな動作に取り組んでしまう生徒もいたので、学習ノートに毎時間目標を設定させ、それに目を通して適切かどうかを朱書きで示すことにした。

13時間扱いの7時間目 平成21年10月27日(火)第4校時(2年3・4組)
ねらい1 基本動作を身に付ける。
本時のねらい (1) 基本的なグラブの使い方ができる。 (2) フェアプレイを守り積極的にゲームに取り組むことができる。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 ・学習内容 3 準備運動(ベースランニング)(キャッチボール)	・生徒の健康状態を確認する。 ・簡易ゲームから、ランナーの動きに応じた守備の課題を見付け解決しながら学習することを確認する。	
35分	なか	<p>ー学習内容ー</p> <p>○ゴロ、バウンドを捕球するには両足を底辺とした三角形を作り、頂点にグラブ先を立てて置き、低い姿勢で構えること。 ○多様なボールの動きに対応するには、胸の位置を境にしてグラブの向きを変えること。</p> <p>4 <b>課題練習</b> ○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックし合う。 ①打撃(ハーフスイング) ・スイング軌道が胸の位置からでている。 ・手の甲を正面にして構える。 ・肘と膝が連動して動き出している。 ・「1、2(いち、に)」の発声でタイミングをとる。 ・バットの印を意識して当てる。 ②投球(ピッチング方法) ・スリングショット、ウインドミルの投法を行い自分に合った投球方法を練習する。 ③捕球(フットワーク) ・ボールの動きを予測し、正面に入り込んだ捕球をする。</p> <p>ー学習内容ー</p> <p>○フェアプレイを守るには、決められたルールやマナーを単に守るのではなく、練習やゲームに求められるフェアな行動を通して、相手を尊重することが大切であること。</p> <p>5 <b>簡易ゲーム②『2日目』</b> ・チーム(5人編成) ・通常ベース ・打者一巡(2イニング)で交代 ・ランナー1塁から開始する ・内野(2名)外野(3名)</p>	 <p>・チェック者にはしっかりとハーフスイングになっているのか等、一言アドバイスを加えるように助言する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt; ⑤近距離から投球したり、緩やかなボールを捕球することで、グラブの使い方に慣れる練習をする。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt; ②楽しさや安全性・公平性を確保するには、ルールやマナーを守ることが大切であることを伝える。</p>	 <p><b>【運動の技能】</b> ⑤基本となるグラブの使い方やボールを投げたり捕ったりできる。 (観察・学習カード)</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b> ②ルールやマナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとする。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもたせる。 ・協力して準備や片付けができるようにする。	


<授業者による振り返り>  
 グラブの出し方についてもまだ身に付いていない生徒がおり、捕球位置を含めて確認したいと思った。ピッチングでは、スリングショットとウインドミルの投法に取り組んだが、全体的に上半身の動きだけで投げていることでボールに勢いがなく、高めの投球が目立った。足を一步踏み出し、ボールを一定の場所で離せるように意識させる必要を感じた。

ねらい1 基本動作を身に付ける。

本時のねらい

- (1) タイミングと場所を合わせてミートする打撃ができる。
- (2) 練習やゲームで分担した役割に取り組むことができる。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動(ベースランニング) (キャッチボール)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康状態を確認する。</li> <li>・次回のフルスイングに向けて、つまづいている部分を意識しながら計画的にチェックを行うことを確認する。</li> </ul>	
35分	なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         -学習内容-                          ○ボールをしっかりミートするにはタイミングと場所を合わせること。                          ○ハーフスイングでミートするには、スイングの軌道を胸の位置から出し、肘と膝が連動して動き出していること。                     </div> 4 <b>課題練習</b> ○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。 ①打撃(ハーフスイング) ・手の甲を正面にして構える。 ・「1、2(いち、に)」の発声でタイミングをとる。 ・バットの印を意識して当てる。 ②投球(ピッチング) ・ねらった場所へ投球するために、常に一定の場所でボールを離す。 ③捕球(フットワーク)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</li> <li>②タイミングと場所を合わせられるように助言を行い適切な目標を立てるよう支援する。</li> <li>・スムーズにハーフスイングができるよう、右肘をしっかりと体側から離さないように助言する。</li> <li>・チームや個人の課題解決を行うために、学習ノートの反省や記録を見合い、それぞれの課題を共有すること。</li> <li>・グループで協力し、互いの意欲や技能を高め合うことの重要性を指導する。</li> <li>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</li> <li>③分担した役割に責任をもち、協力する雰囲気作りをする。</li> </ul>	<b>【運動の技能】</b> ②タイミングと場所を合わせてミートすることができる。 (観察・学習カード)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         -学習内容-                          ○練習やゲームの進行などでは、記録や審判・キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に責任をもって取り組むことが大切なこと。                     </div> 5 <b>簡易ゲーム②『3日目』</b> ・チーム(5人編成) ・通常ベース ・打者一巡(2イニング)で交代 ・ランナー1塁から開始する ・内野(2名)外野(3名)		<b>【関心・意欲・態度】</b> ③練習やゲームで分担した役割に積極的に取り組もうとする。 (観察・学習カード)
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもてるようにする。</li> <li>・協力して準備や片付けができるようにする。</li> </ul>	

<授業者による振り返り>

スイング開始時のウォーミングアップで、積極的に素振りを行ったり、バットを水平に出してミートするポイントに合わせようとしたりする場面が多く見られるようになった。そのため、ミート率や打球の距離も長くなっていることが感じられた。スローボールに取り組む生徒が出てきたことで、ピッチャーがストライクゾーンを意識できるよう、ネットにフラフープを吊下げた。生徒の関心は高く、打つことよりも投げることに夢中になる生徒もいた。また、チーム内で声を掛け合いながら用具の準備や片付けの役割が定着してきた。

13 時間扱いの 9 時間目	平成 21 年 11 月 4 日 (水) 第 4 校時 (2 年 3・4 組)
ねらい 2 身に付けた力でゲームを楽しむ。	
本時のねらい (1) 技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。 (2) 役割に応じた協力や、練習や試合での安全に留意することができる。	

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動 (チーム練習)	・生徒の健康状態を確認する。 ・フリーバッティングに向けてチームで効率よく練習できるようにする。	
35分	なか	<p>ー学習内容ー</p> <p>○大きなスイングをするには、重心移動を意識して体の中心に軸があるつもりで体を回転させること。</p> <p>○役割を分担して仲間と協力して活動するためには、チームで安全に気を配り、練習や試合でのアドバイスを充実させること。</p> <p>4 <b>課題練習</b></p> <p>○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。</p> <p>①打撃 (フルスイング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイング軌道が肩の位置からでている。</li> <li>・手の甲をピッチャーに向けて、耳の位置で構えている。</li> <li>・へそをピッチャーに向けてバットが振れ、頭が残っている。</li> <li>・重心移動をし、バットを振り終えた後も軸がぶれていない。</li> </ul> <p>②送球 (ボール回し)</p> <p>③捕球 (グラブの構え、ゴロ、バウンド)</p> <p>5 <b>フリーバッティングゲーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローピッチングで 1 人 3 球打つ。(空振りも 1 球としてカウントする)</li> <li>・ピッチャーは自分のチームから出す。</li> <li>・守備がボールを捕球した位置によって、1 点～4 点の得点となる。ただし、フライをノーバウンドで捕球した場合は、獲得点数 - 1 点となる。</li> <li>・5 人全員が打ち、チームの獲得点数が多かった方が勝ち。</li> </ul>	 <p>・チェックする人は、しっかりと技術ポイントを押さえているのか等、一言アドバイスを加えるように助言する。</p> <p>・グループで声をかけ合いながら、周囲の安全に気を配ること。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>③スキルアップシートを使い、仲間にアドバイスをしてもらう。</p> <p>・フリーバッティングゲームに向けて、味方が打ちやすいボールを投球するように安全上の留意点を含めて助言する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>④仲間の課題や解決方法などを参考にしながら例示する。</p>	 <p><b>【運動の技能】</b></p> <p>③技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。(観察・学習カード)</p> <p><b>【思考・判断】</b></p> <p>④仲間と役割に応じた協力の仕方を選んだり、安全上の留意点を練習や試合に当てはめたりしている。(観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振りかえる ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもてるようにする。 ・協力して準備や片付けができるようにする。	

<授業者による振り返り>

授業も終盤を迎え、本時から生徒が待ち望んでいたフルスイングに取り組んだ。今まで行ってきたミニスイング、ハーフスイングのステップを基に取り組ませたが、バットの重さに対応できずグリップの握りが開いてしまう生徒が見られた。ミニスイングまでは打撃練習やゲームにおいても、突出した個人差をあまり感じることはなかったが、ここにきて技術の高まりが顕著にスイングに表れてきたように思える。大きな振りをするためにはバットを短く持つ等、技術が身に付いていない生徒の視点に立って指導案を組み直していく必要があると感じた。フリーバッティングゲームでは、ピッチャーとなる生徒が相手に打ちやすい投球をしようと努力していた。打つ生徒も伸び伸びと大きくバットを振っており、打った感触や打球の伸びに歓声が上がっていた。

13時間扱いの10時間目 平成21年11月5日(木)第4校時(2年3・4組)
ねらい2 身に付けた力でゲームを楽しむ。
本時のねらい (1) チームの課題解決に向けた話し合いができる。 (2) 試合のルールや行い方を理解する。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動(チーム練習)	・生徒の健康状態を確認する。 ・スイングの基本動作を再確認させる。	
35分	なか	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○チームや個人の課題解決を行うには、学習ノートの反省や記録を見合い、それぞれの課題を共有すること。         </div> <p>4 <b>課題練習</b>          ○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。          ①打撃(フルスイング、投球ボールの選択)          ・テイクバックを肩の位置から行い、より力強いスイングをする。          ・体のひねりを利用してより大きなスイングをするには、体の中心に軸があるつもりで体を回転させる。          ②送球・捕球(塁間のボール回し)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           -学習内容-            ○試合のルールや行い方を理解するには、学習カードでの説明と実際の動きにより確認すること。         </div> <p>5 <b>投球ボール選択ゲーム②</b>          ・チーム(9~10人編成)          ・ランナー1塁からのゲーム展開          ・打者一巡でイニング交代          ・外野手4名(レフト、ライト、レフトセンター、ライトセンター)          ・三振あり          ・走者は打者が打ってから離塁でき盗塁はなし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力し、互いの意欲や技能を高め合うことの重要性を理解させる。</li> <li>・体の軸を安定させてバットを振りぬくには、構えた状態からステップをし、後ろ足からの重心を前足にスムーズに移動させることを意識させる。</li> <li>・外野に打球が飛んだ場合は打者や走者の位置に応じて中継プレイに入るように促す。</li> <li>・グループ内での役割分担をしっかりと行い、効率よくゲームが展開できるように促す。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;          ④つまづいている内容について具体的な資料を提示したり、説明したりしながらその内容が言えるようにする。          &lt;C、C△の生徒への手立て&gt;          ④学習カードの記録や感想の内容など、記述したことを参考にしよう助言する。</p>	 <p><b>【知識・理解】</b>          ④試合のルールや行い方を言ったり書き出したっている。          (観察・学習カード)</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b>          ④チームの課題解決に向けて自らの考えを述べるなど、話し合いに参加しようとする。          (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回の確認 8 挨拶・片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもたせる。</li> <li>・協力して準備や片付けができるようにする。</li> </ul>	

<授業者による振り返り>

本時から投球ボールをティー、トス、スローボールから各自が選択し、ランナー1塁からのゲームを行った。どの生徒もランナーを先に進ませないことは理解しているようであり、ランナーの先回りをして塁上に移動する姿が見られた。ランナーの意識としては、ひとつでも先のベースを踏めば得点につながるのだから、打球や送球に対して塁上に留まるという意識がなく、鬼ごっこ状態になってしまった。しかし、得点を最小限に抑えるために、間に合う塁を見つけて大きな声でアドバイスするなど、チーム間のコミュニケーションもさらに充実してきた。このゲームの内容を、通常のゲームにより近付けられるように生かしていきたいと思う。また、ポジションや打順をチームで話し合わせたのが、ポジション決めではチームの特性を生かし、得点を最小限に抑える配置や作戦を考えていた。

13時間扱いの11時間目	平成21年11月18日(水)第4校時(2年3・4組)
ねらい2 身に付けた力でゲームを楽しむ。	
本時のねらい (1) チームの状況に合った作戦や練習方法に取り組む。 (2) 打球や送球に備えた準備姿勢を行うことができる。	

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	1 集合、出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動(チーム練習)	・生徒の健康状態を確認する。 ・チームの練習に工夫して取り組むように助言する。	
35分	なか	<p>ー学習活動ー</p> <p>○チームの状況に合った作戦や練習方法に取り組むには、積極的に話し合いに参加すること。</p> <p>○ゲームを楽しむためには、打球や送球に備えた準備姿勢を行い、自チームの状況に合った守備位置と作戦を考えること。</p> <p>4 <b>課題練習</b></p> <p>○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。</p> <p>①打撃(スイング動作の選択)</p> <p>②送球・捕球(塁間のボール回し)</p> <p>○投球や送球に備えた準備姿勢についてグループでの話し合い、チェックをし合う。</p> <p>・捕球から送球動作を一連の動きで行うために、まずはボールをしっかりと確保してから送球を行う。</p> <p>・送球がそれた際には、ボールの正面には入れる位置まで移動をし、捕球した後にベースを踏むことを意識する。</p> <p>・送球する際には、相手がグラブを出して捕球の準備ができていないことを確認してから投げる。</p> <p>・ボールをスムーズに送球するには捕ったら素早くボールを耳の位置に持ってくる。</p> <p>5 <b>投球ボール選択ゲーム②</b></p> <p>・グループでの話し合い(守備位置の確認)</p> <p>・チーム(5人編成)</p> <p>・ランナーなしのゲーム展開</p> <p>・投球ボールの選択</p> <p>・通常ベース</p> <p>・三振あり</p>	<p>・自分の役割を意識して活動できるように、話し合いやゲームでの記録や準備等を積極的に行うよう支援する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>③技能に合わせてより効率的な練習方法について一緒に考え、具体的に示しながら選ばせる。</p> <p>・個人の学習ノートやチームで記録記入にしっかりと取り組めるように助言する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>⑥準備姿勢からフットワークを使い、状況に応じた動きの反復練習をする。</p>	<p><b>【思考・判断】</b></p> <p>③チームの状況に合った作戦や練習方法を選んでいる。 (観察・学習カード)</p> <p><b>【運動の技能】</b></p> <p>⑥決められた位置で打球や送球などに備える準備姿勢で構えることができる。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る ・学習カードへ記入 7 次回確認 8 挨拶・片付け	・ゲームを振り返っての感想を述べさせ、次回のめあてをもてるようにする。 ・協力して準備や片付けができるようにする。	

<授業者による振り返り>

前回の反省を受けて、ランナー1塁の状態からランナーなしのゲームに変更した。このことにより守備は打ったランナーだけを意識することができ、ボールをどこへ送れば良いか明確になった。次の課題として守備においてはポジションの役割意識と、塁上に捕れるボールを送るのだが、捕ってから投げるまでに時間がかかってしまうことが塁間のボール回しから予想されるので、今できていることに自信をもたせつつ、技能の定着を深めることの方が大切だと感じた。ゲームでは、スローボールが確実に打てない、当たっても芯を捉えることが困難なためボールが上がらないという振り返りがあったことから、本時は、ティーボールで打つ生徒がほとんどだった。守備では、各ポジションの決められた位置に入ることはできるが、低い姿勢で打球や送球に備えた準備姿勢ができなかった。特に、ゴロを捕球するには腰の位置が高いためボールを後ろにそらしてしまう生徒がいた。

13時間抜きの12時間目 平成21年11月19日(木)第4校時(2年3・4組)

ねらい2 身に付けた力でゲームを楽しむ。

本時のねらい

- (1) 自分の能力に応じたボールをミートしたり、技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。
- (2) 次の塁をねらって全力で走塁する。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
10分	はじめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 集合、出席確認、挨拶</li> <li>2 本時のねらいの確認</li> <li>3 準備運動(ストレッチ)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康状態を確認する。</li> <li>・ゲーム展開により、どの場所に送球すれば良いのかを助言する。</li> </ul>	
35分	なか	<p>ー学習内容ー</p> <p>○自分の能力に応じたボールをミートするには、打球の高さや方向を考え、大きなテイクバックとフォロースルーによって体の軸がぶれないように腰をしっかりと入れ、タイミングがとれるようにすること。</p> <p>○効率の良い走塁をするには直線的ではなく、体を内側に傾けて回り込むようにすること。</p> <p>4 <b>課題練習</b></p> <p>○グループ内でペアを作り、自分の能力に合った投球を選びチェックをし合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①打撃(スイング動作の選択)</li> <li>②走塁(ベースランニング)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードを落とさずにベース間を回ることを意識する。</li> <li>・体を内側に傾かせ腕を大きく振る。</li> </ul> </li> </ol> <p>5 <b>投球ボール選択ゲーム②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合い(守備位置カバー)</li> <li>・チーム(5人編成)</li> <li>・ランナーなしのゲーム展開</li> <li>・投球ボールの選択</li> <li>・通常ベース</li> <li>・三振あり</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・打球や送球によって次の塁をねらうのかストップするかの判断を指導する。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>⑦つまづいているポイントを明確にして、系統を立てて段階的に練習するよう助言する。</p> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt;</p> <p>④直線的な走りではなく、ベースを回る際には体を内側に傾けて、方向を変えるように助言する。</p>	 <p><b>【運動の技能】</b></p> <p>⑦自分の能力に応じたボールをミートしたり、技術ポイントを押さえてバットを振ることができる。 (観察・学習カード)</p> <p><b>【運動の技能】</b></p> <p>④次の塁をねらって全力で走ることができる。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>6 本時のまとめ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返る</li> <li>・学習ノートへ記入</li> </ul> </li> <li>7 次回の確認</li> <li>8 挨拶</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを振り返り、次回のめあてをもてるようにする。</li> <li>・協力して準備や片付けができるようにする。</li> </ul>	

<授業者による振り返り>

雨が強く降り始めてきたためグラウンドでゲームを先に行い、その後、体育館での打撃練習を行った。ゲームでは、外野に飛んだボールを中継してホームベースに返すなど連携したプレーができてきた。打撃練習では、通常のバットからペットボトルバットになったため、生徒は鋭くバットを振ることができていた。しかし、それによってさらに下半身の力を使わなくなっていたので、膝を柔らかく体重移動させることを意識付けた。フォームが乱れた時にはペットボトルのような軽い器具を使用して、フォームの確認をさせることも有効な手段だと感じた。



13 時間扱いの 13 時間目 平成 21 年 11 月 25 日 (水) 第 4 校時 (2 年 3・4 組)
ねらい 2 身につけた力でゲームを楽しむ。
本時のねらい (1) 学習のまとめとして仲間や自己を振り返り、技能向上や関連して高まる体力などを理解する。

学習の流れ

		学習内容と活動	教師の指導・支援	評価規準と方法
10分	はじめ	1 出席確認、挨拶 2 本時のねらいの確認 3 準備運動 (ストレッチ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の健康状態を確認する。</li> <li>これまで練習してきたことをすべて出し切って、技能の高まりや充実感を味わうようにする。</li> </ul>	
35分	なか	<p>—学習内容— ○関連して高まる体力には巧緻性、敏捷性、瞬発力、筋力があること。</p> 4 <b>スキルテスト</b> (各種ボール 5 球) <ul style="list-style-type: none"> <li>計測、記入の仕方</li> <li>計測ローテーション</li> <li>バッティング               <ul style="list-style-type: none"> <li>①ティーボール</li> <li>②トスボール</li> <li>③スローボール</li> </ul> </li> </ul> ○互いに技術や体力が向上したのかを見取るために、グループでの取組を振りかえる。 5 <b>投球ボール選択ゲーム②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合い (守備の役割確認)</li> <li>チーム (5 人編成)</li> <li>ランナーなしのゲーム展開</li> <li>ティー、トス、スローボール選択</li> <li>三角ベース (墨間 15m)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全には十分に配慮するように、声かけや場づくりを行い、自分の課題に気付くように助言する。</li> <li>グループ単位でスキルテストに取り組み、結果から練習の成果が発揮できるかを振り返る。</li> <li>各ポジションの役割を確認し合い、実際にゲームの中で連携した動きが身に付くように助言する。</li> </ul> <p>&lt;C、C△の生徒への手立て&gt; ③つまづいている内容について具体的な資料を提示したり、説明したりしながらその内容が言えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトボールの楽しみ方を知り、次年度への意欲がもてるように指導する。</li> </ul>	 <p>【知識・理解】 ③関連して高まる体力を言ったり書き出したりしている。 (観察・学習カード)</p>
5分	まとめ	6 本時のまとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振りかえる</li> <li>学習ノートへ記入</li> </ul> 7 挨拶・片付け。	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能の高まりを知り、次年度への目標を持たせるために、事前スキルチェックの結果と比較させ意味を持たせるようにする。</li> </ul>	

<授業者による振り返り>

スキルテストでは、全体的にどのボールに対しても比較的安定したバッティングが見られた。特に成長を感じたことは、スローボールにタイミングを合わせて打てるようになったことで、自分が打ちやすいボールだけを選択して打つ選球眼が身に付いてきた。どの生徒も事前スキルテストの結果を受け、仲間や自己の技術の向上を振り返っていた。・練習なしでテストに取り組んだので、事前に短時間でも素振りなどの練習をさせるべきだと思った。・バッティングが苦手な生徒は、ボールとの距離感をとることが身に付いていないので、早い段階から根気強く定着させることが必要だと思った。



れていないのにトスに取り組んだ」あるいは「トスがクリアされていないのにスローに取り組んだ」生徒については、投球ボールを「正しく選択できていない」ということにした。条件どおり5本中4本以上打てて投球場所を選んでいる生徒は「正しく選択できている」とした。図3-3は上記条件のもと、打撃練習に取り組んだ時間における投球ボールを「正しく選択できた生徒」と「できなかった生徒」の推移を表したものである。その結果、80%~91%の生徒が正しい段階で取り組んでいたことがわかった。

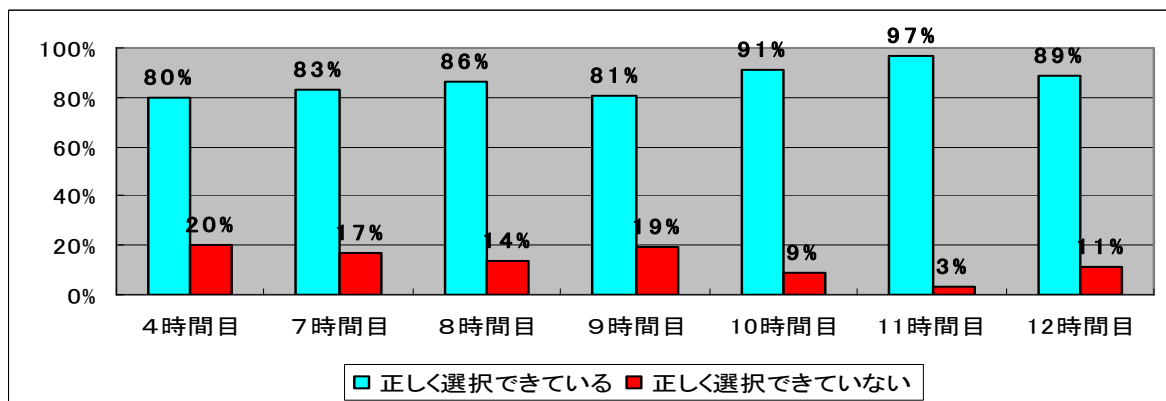


図3-3 学習カード「自分の能力に合った投球ボール選択状況」

(1) ア 「自分の能力に合った投球ボールを選択できたか」についての考察

ほぼ全員の生徒が、ティー・トス・スローボールの違いを理解して学習に取り組んでいた。(図3-1) また、ほぼ全員の生徒が自分に合った投球ボールを正しく選択できたと考えていた。(図3-2) さらに、ティー・トス・スローボールの3段階で投球ボールを選択させた場の工夫に対し、大変多くの生徒が決められた段階での学習に取り組んでいた。(図3-3)

このことから、投球ボールが選択できる場の設定により、生徒が自分の能力に合った投球ボールを正しく選択し、打撃練習に取り組んでいたと考える。

イ 選択したボールをミートすることができたか

(ア) 事前・事後アンケートの比較による分析

図3-4は、事後アンケート「バットのどこに当てればいいのか理解していますか」における人数の割合である。「よく理解している」「理解している」と答えた生徒を合わせると、38名中36名で全体の約95%であった。また、「あまり理解していない」「理解していない」と答えた生徒を合わせると2名であった。

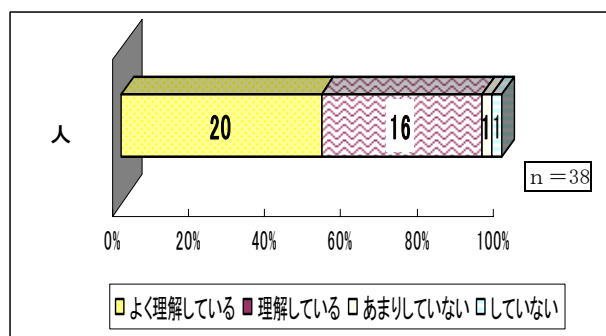


図3-4 事後アンケート「バットのどこに当てればいいのか理解していますか」

図3-5は、事前アンケート「バットの印にボールを当てることができますか」における人数の割合である。「よくできる」「できる」と答えた生徒を合わせると38名中、7名で全体の18%であった。また、「あまりできない」「できない」と答えた生徒を合わせると31名であった。

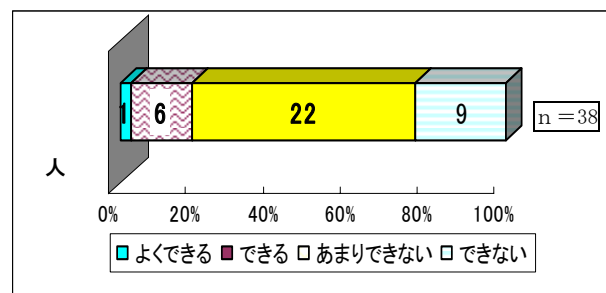


図3-5 事前アンケート「バットの印にボールを当てることができますか」

図3-6は、事後アンケート「バットの印にボールを当てることに取り組みましたか」における人数の割合である。「よく取り組んだ」「取り組んだ」と答えた生徒を合わせると、38名中、29名で全体の約76%であった。また、「あまり取り組んでいない」「取り組んでいない」と答えた生徒を合わせると9名であった。

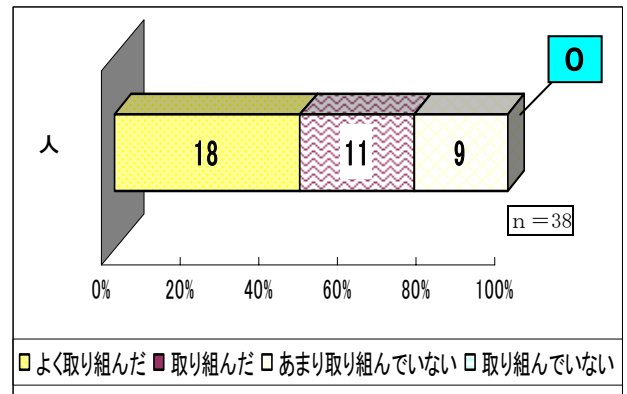


図3-6 事後アンケート「バットの印にボールを当てることに取り組みましたか」

図3-7は、事後アンケート「バットの印にボールを当てることが身に付きましたか」における人数の割合である。「よく身に付いた」「身に付いた」と答えた生徒を合わせると、38名中、27名で全体の約71%であった。また、「あまり身に付かない」「身に付かない」と答えた生徒を合わせると11名であった。

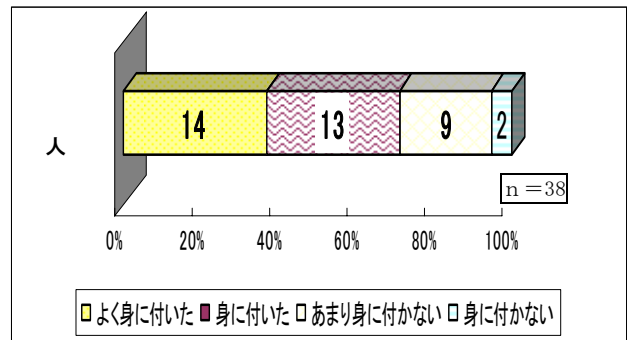


図3-7 事後アンケート「バットの印にボールを当てることが身に付きましたか」

図3-8は、事後アンケート「1、2と自分のタイミングでバットを振ることができましたか」における人数の割合である。「よくできた」「できた」と答えた生徒を合わせると、38名中30名で、全体の約79%であった。また、「あまりできなかった」「できなかった」と答えた生徒を合わせると8名であった。

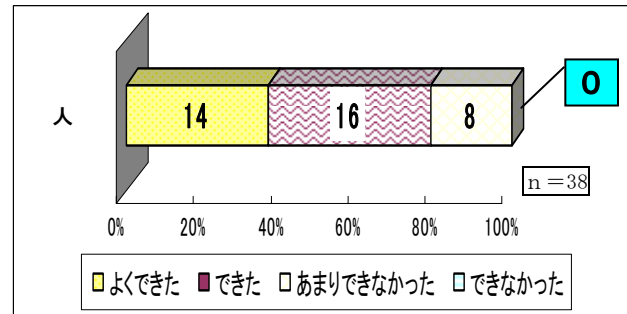


図3-8 事後アンケート「1、2と自分のタイミングでバットを振ることができましたか」

図3-9は、事前・事後アンケート「タイミングを合わせてバットにボールを当てることができますか」における人数の割合を比較したグラフである。「よくできた」「できた」と答えた生徒は事前では1名であったが、事後では9名に増加していることがわかる。また、事後では、「よくできた」「できた」を合わせると31名であり全体の約82%の生徒が、タイミングを合わせてバットを振りボールを当てることができていた。

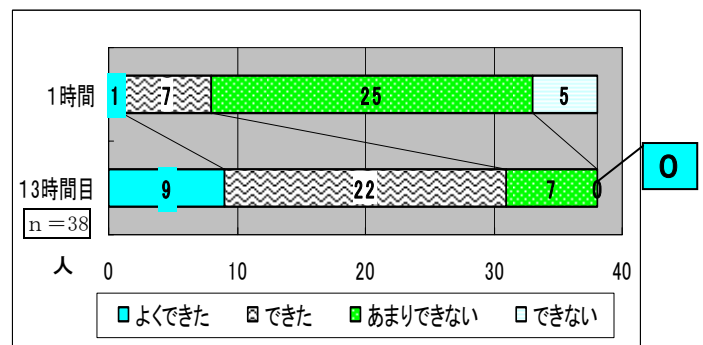


図3-9 事前・事後アンケート「タイミングを合わせてバットにボールを当てることができますか」

(イ) 学習カードによる分析

図3-10は、打撃練習の各スイング期間において、ティー・トス・スローの選択した投球ボールに対し、その日のうちに5本中4本以上ミートすることができた生徒と、できなかった生徒の延べ数を示したものである。4本以上ミートすることができた確率は、ミニスイングでは約72%、ハーフスイングでは約94%、フルスイングでは約78%であった。

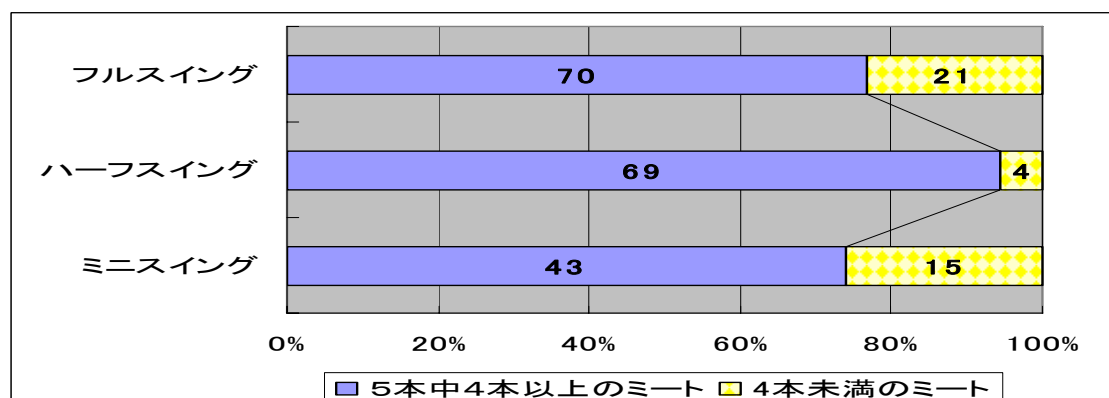


図3-10 学習カード「選択ボールミート者数」

(1) イ 「選択したボールをミートすることができたか」についての考察

ほぼ全員の生徒が、バットのどこに当てればよいかを理解しており（図3-4）、多くの生徒が、バットの印にボールを当てるよう取り組んだり（図3-6）、1、2、のリズムのカウントをとってバットを振ったりしていた。（図3-8）また、多くの生徒がバットの印にボールを当てるのが身に付いたと感じており、（図3-7）大変多くの生徒が、バットにボールを当てることができると感じていた。（図3-9）さらに、多くの生徒が選択した投球ボールに対し、5本中4本以上ミートできていた。（図3-10）

このことから、打撃練習に取り組む中で、選択したボールをミートすることができていたと考える。

ウ 各種投球ボールをミートすることができたか

(ア) 事前・事後のスキルテストの比較による分析

ティーボールでは、使用したバット、ボール等は事前・事後とも同じものを使用した。トスボール、スローボールでは事前でペットボトルバットを使用し、事後では通常の3号ボールに対応した公式バットを使用した。（ペットボトルバットは1.50の大きさのもので四角い形状をしている。付属のグリップはプラスチックで、直径15cm、長さ30cm、重量は約170gのものを使用した。）

図3-11は、1時間目と13時間目におけるスキルテストにおいて、ティー、トス、スローボールでのミート確率を比較したグラフである。ティーボールは1時間目から比較的安定したミート数ではあったが、5本中4.1本から4.6本へと、より確実にミートすることができていた。トスボール、スローボールにおいては単純に比較することはできないが、トスボールは2.1本から3.1本へ、スローボールは1.6本から2.5本と、使用する用具がボールをとらえるのに易しいものから難しいものに関わ

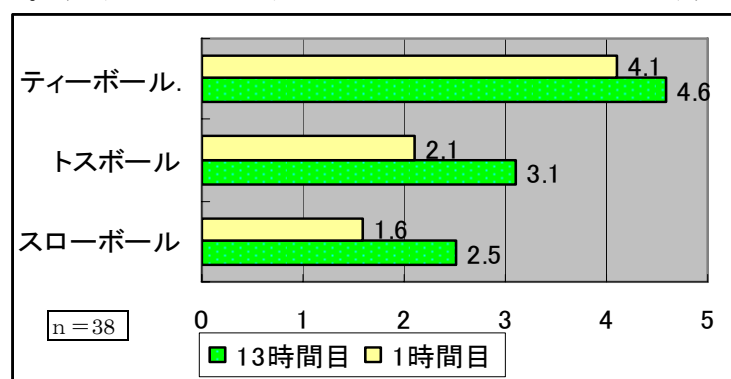


図3-11 事前・事後スキルテスト「投球ボールミート数の比較」

らず、ミートする確率が伸びていることがわかる。

(1) ウ 「各種投球ボールをミートすることができたか」についての考察

「投球ボールミート数の比較」の結果から、事前から事後にかけて、ティー・トス・スローボールの全てに対してミート数が増加している。(図3-11)

このことから、13時間の学習を通じて、生徒は各種投球をミートする技術が高まったと考える。

(1) 「投球ボールが選択できる場の工夫により、ミートするバッティングが身に付いたか。」についてのまとめ

以上述べてきたように、次のことが明らかになった。

- 投球ボールが選択できる場の工夫により、生徒が自分の能力に合った投球ボールを正しく選択し、打撃練習に取り組む中でミートするバッティングを積み重ね、ミートする技術を高めていった。

このことから、投球ボールが選択できる場の工夫により、生徒は自分に合った投球ボールに取り組み、ミートするバッティングを身に付けることができたと考える。

(2) 段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付いたか。

ア 各段階の学習に取り組むことができたか

(ア) 事後アンケートによる分析

図3-12は、事後アンケート「ミニ・ハーフ・フルの各段階の学習に取り組みましたか」における人数の割合である。「よく取り組んだ」「取り組んだ」と答えた生徒を合わせると、38名中、37名で全体の97%であった。

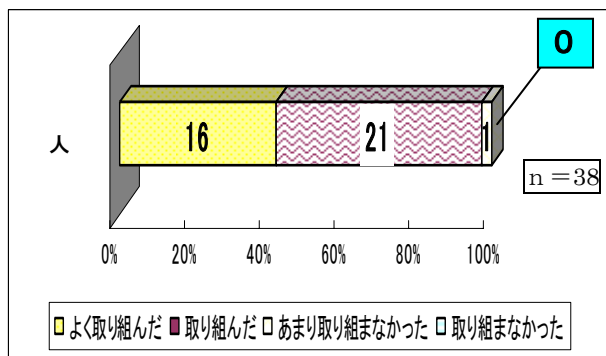


図3-12 事後アンケート「ミニ・ハーフ・フルの各段階の学習に取り組みましたか」

図3-13は、事後アンケート「正確なフォーム作りに取り組みましたか」における人数の割合を示したグラフである。「よく取り組んだ」「取り組んだ」と答えた生徒を合わせると、38名中、37名で全体の97%の生徒が、正確なフォーム作りに取り組めた。

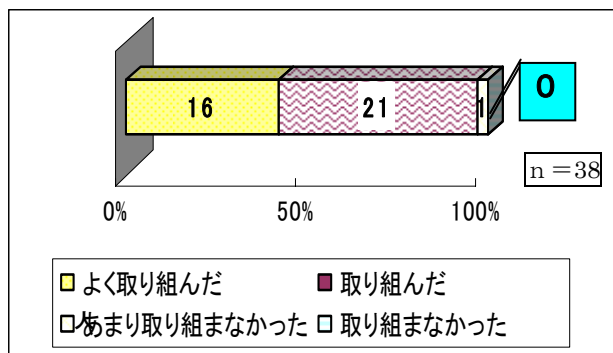


図3-13 事後アンケート「正確なフォーム作りに取り組みましたか」

(イ) スキルアップシートによる分析

表3-3は、生徒が各スイング段階に、正しく取り組むことができていたかをスキルアップシートによって判断したものである。打撃練習が開始された4時間目～11時間目までの、各スイングに取り組んだ推移を示しており、原則として5時間目まではミニスイング、6～8時間がハーフスイング、9時間目以降はフルスイングに取り組むことになっている。

予定していたスイングとは異なるスイングを選択していた生徒が5時間目に1名、8時間目に5名いたことが明らかになった。

表3-3 「指導内容と生徒の活動状況」

指導内容	ミニスイング		ハーフスイング			フルスイング		
	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目	10時間目	11時間目
実施スイング								
ミニスイング	0	0	0	0	0	0	0	0
ハーフスイング		1	0	0	0	0	0	0
フルスイング					5	0	0	0

表3-4は、4～11時間目におけるスキルアップシートの活用状況を表したものである。これによると、活用しなかった生徒が毎時間1～5名いるが、活用率が多い時で94%、少ない時でも85%と、ほとんどの生徒がスキルアップシートを活用し、活動に取り組んでいたことがうかがえる。

表3-4 「スキルアップシートの活用状況」

時 間	4	5	6	7	8	9	10	11
実施人数	35	17	17	35	37	32	34	35
活用者数	33	15	16	31	35	28	29	32
未活用者	2	2	1	4	2	4	5	3

(ウ) 学習カードの感想による分析

表3-5は、スキルアップシートの技術ポイントに関わる内容について生徒が学習カードの感想欄に記述していたものの抜粋である。感想記述は延べ406であり、そのうち技術ポイントに関わる記述がされていたものは延べ82であった。

表3-5 学習カード「技術ポイントに関わる感想」の記述抜粋

今日知って直したいのは水平にバットを振ること、肘をちゃんと曲げて打つことです。フォームを気にしすぎるとボールにちゃんとミートしないから難しいけど、フォームをしっかりと美しくことを優先的にしていきたい。
身体をひねる方がボールがよく飛んだ。水平にバットを振れないと変なところへ打ってしまったり、当てそこないのボールが出てしまう。
ボールをよく見て打てるようにする。スイングを小さく意識する。水平に打てるようにする。
少しはハーフスイングの形ができるようになったが、肘と膝の連動が難しかった。ゲームは連動も意識してやった。上体のひねりを意識してうまく振れるようにする。
見ているスイングが腰か胸くらいからしか出ていなかった。やっぱりミニやハーフの癖が体に残っているよう。
打った後、足が大きくずれていると打てない。
足が慣れていなかったので、手だけで振ってしまった。次回は足も使ってボールを打つようにしたいです。
上体のひねりを使ってミニスイングするのが難しかった。上体をひねろうとするとフルスイングになってしまった。何か一つを気にしちゃうと他の三つの項目が気にかけることが難しい。
水平にバットが振れていなかった。他の人に見てもらってチェックすると自分ができていないところが分かった。水平に打てるようにしたい。
いつもよりたくさん打てた。でも水平にバットが振れていなかったから次回はそこを意識して頑張りたいと思います。分かったことは①～④を全部できるとキレイなフォームができると思うのでそれを目指して頑張りたいです。

(2) ア「各段階の学習に取り組むことができたか」についての考察

一部を除き、ほぼ全員の生徒が、ミニスイング・ハーフスイング・フルスイングの段階的な学習に従って、正確なフォーム作りに取り組んでいた。(図3-12、13、表3-3) 学習を進めるにあたっては、大変多くの生徒がスキルアップシートを活用して正確なフォーム作りに取り組んでいた。(表3-4) 正確なフォーム作りのための技術ポイントが、授業後の感想に述べられることもあった。(表3-5)

このことから、小さい動作から大きい動作への段階的な学習を進める中で、生徒は正確なフォーム作りに必要な技術ポイントを意識しながら、打撃練習に取り組んでいたと考える。

イ 大きくて正確なフォームを身に付けることができたか

(ア) 事後アンケートによる分析

図3-14は、事後アンケート「大きなスイングが身に付きましたか」における人数の割合を示したものである。「とても身に付いた」「身に付いた」と答えた生徒を合すると、38名中36名で、全体の約95%であった。

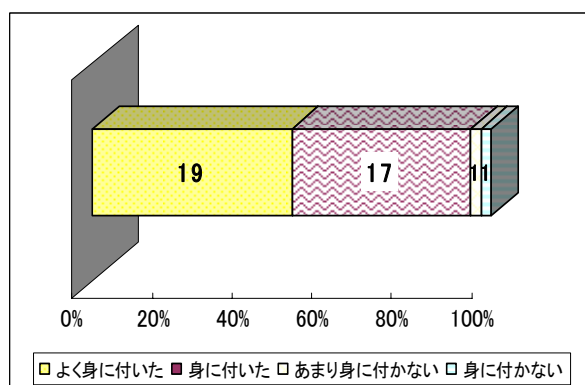


図3-14 事後アンケート「大きなスイングが身に付きましたか」

図3-15は、事前・事後アンケート「正確なフォームができましたか」における人数の割合を比較したものである。

事前では「とても身に付いた」「身に付いた」を合わせて3名と少数であったが、事後では31名が、「とても身に付いた」「身に付いた」と答えており、全体の約82%の生徒が正確なフォームを身に付けたとしている。

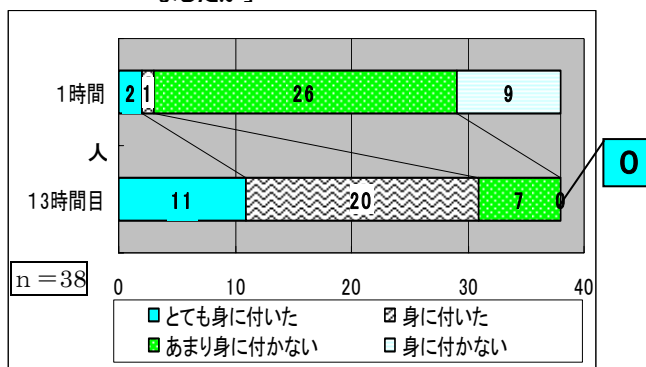


図3-15 事前・事後アンケート「正確なフォームができましたか」

(イ) 全生徒の映像による分析

図3-16は、フルスイングの学習期間に記録された映像から、生徒がフルスイングしている姿を取り上げ、一人一人が正確なフォームができているかを分析したものである。チェック項目は次の4項目でおこなった。その結果、検証対象者39名のうちチェック項目を全て満たしていた生徒が19名、3項目満たしていた生徒が10名、2項目満たしていた生徒が8名であった。

なお、分析は中学校保健体育科教諭3名により、3名中2名が認めた場合により、その項目が身に付いたとした。

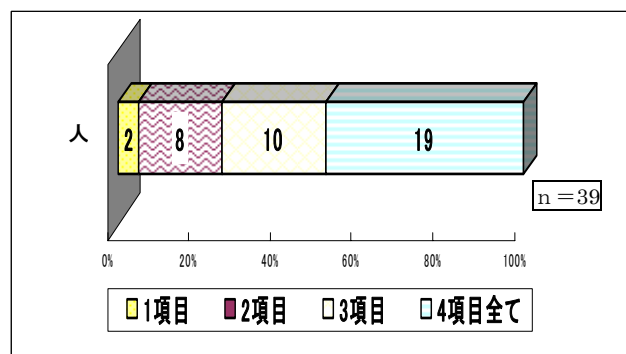


図3-16 「映像分析でフォームのチェック項目が充たされていた人数」



<チェック項目>

- 1 スイングの軌道が肩の位置からでている。
- 2 手の甲をピッチャーに向けて、耳の位置で構えている。
- 3 ヘソをピッチャーの方へ向けてバットが振れ、頭が残っている。
- 4 重心移動をし、バットを振り終えた後も軸がぶれていない。

(ウ) 抽出生徒の映像による分析

表3-6は、バット操作において特徴的な3名の生徒を抽出し、時間と共に変容する技術の高まりを映像でとらえたものである。前半と後半のフォームを比較した結果、次のことがわかった。また、事前、事後の項目にある◎○×の評価は、中学校保健体育科教諭3名により、3名全員が認めた場合が◎、1～2名が認めた場合が○、認めなかった場合を×とした。

表3-6 授業におけるフォームの変容

	生徒A	生徒B	生徒C
項目	1○ 2○ 3◎ 4◎	1× 2× 3○ 4×	1× 2× 3× 4×
前半			
項目	1◎ 2◎ 3◎ 4◎	1○ 2× 3○ 4◎	1× 2× 3○ 4×
後半			

**生徒A**は、前半から安定したスイングであったが、後半ではわきが締まり、体の近くで振れていた。さらに、右の膝が内側に入ることによって上体の伸びあがりを抑え、腰がしっかりと入ることによって、左の肩越しまでフォロースルーができていた。

**生徒B**は、前半ではスタンスが狭く、ティースタンドと平行に体が位置しているために、腰が回らずにフォロースルーが胸の前で止まっていた。しかし、後半ではスタンスを広くとり、膝を曲げることで安定した重心移動からスイングが行われていた。フォロースルーにおいても頭を残し、振りが強くなっても最後まで軸がぶれずに、手首を返すことができていた。

**生徒C**は、前半ではティースタンドと正対しているため、最初からへそが正面を向き、水平ではなく、バットを斜めに振り下していた。そのため、常にダウンスイングになり、フォロースルーではバットの先が地面を向いてしまっていた。しかし、後半ではティースタンドとの距離や立ち位置を理解し、最後まで頭を残し、ボールを見てスイングすることができていた。

**(2) イ 「大きくて正確なフォームを身に付けることができたか」についての考察**

ほぼ全員の生徒が、大きなスイングが身に付いたと感じており、(図3-14)大変多くの生徒が、正確なフォームができていたと感じていた。(図3-15)また、全生徒の映像からは、ほぼ全員の生徒が、大きなスイングを学習する期間において、正確なフォームに必要な技術ポイントを、複数身に付けていることが確認された。(図3-16)特徴的な3名の生徒の映像からは、個々の能力に応じて技術ポイントを身に付けたことが分かった。(表3-6)

このことから、生徒は自分の能力に応じて技術ポイントを習得し、大きくて正確なフォームを身に付けていったと考える。

**(2) 「段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付いたか。」について  
のまとめ**

以上述べてきたように、次のことが明らかになった。

- 小さい動作から、大きい動作への段階的な学習を進める中で、生徒は正確なフォーム作りの技術ポイントを意識し、自分の能力に応じて打撃練習に取り組み、大きくて正確なフォームを身に付けていった。

このことから、段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付いたと考える。

**(3) 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができたか。**

ア 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができたか

(ア) 事前・事後アンケートの比較による分析

図3-17は、事前・事後アンケートの比較による「ボールを打って気持ちがいいと感じますか」における人数の割合を比較したものである。「とても感じる」「感じる」と答えた人を合わせると事前では38名中35名で、全体の92%であった。また事前では「あまり感じない」「感じない」と答えた生徒を合わせると3名であったが、事後では「とても感じる」と答えた生徒が12名増加し、「あまり感じない」「感じない」と答えた生徒は0に減少した。

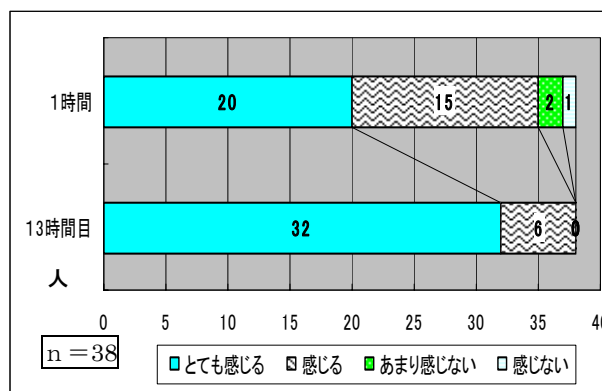


図3-17 事前・事後アンケート「ボールを打って気持ちがいいと感じますか」

図3-18は、事後アンケートによる「授業に取り組む中で、前よりも打てるようになってきたと感じますか」における人数の割合である。「とても感じる」「感じる」と答えた生徒を合わせると38名中35名であり、全体の92%であった。また、「あまり感じない」と答えた生徒は3名おり、「感じない」という生徒は0名であった。

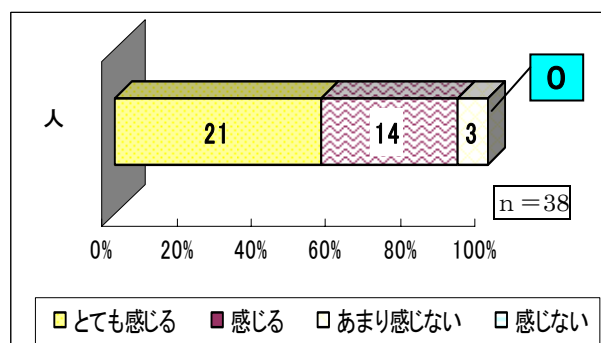


図3-18 事後アンケート「授業に取り組む中で 前よりも打てるようになってきたと感じますか」

図3-19は、事後アンケートによる「前より勢いのある打球になってきたと感じますか」における人数の割合である。「とても感じる」「感じる」と答えた生徒を合わせると38名中32名であり、全体の約85%であった。また、「あまり感じない」と答えた生徒は5名、「感じない」と答えた生徒が1名いた。

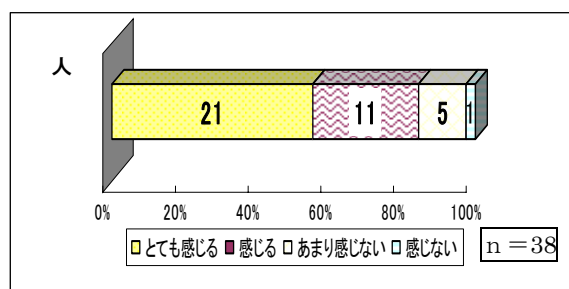


図3-19 事後アンケート「前よりも勢いのある打球になってきたと感じますか」

図3-20は、事後アンケートによる「前よりも遠くに打てるようになってきたと感じますか」における人数の割合である。「とても感じる」「感じる」と答えた生徒を合わせると38名中33名であり、全体の約87%であった。

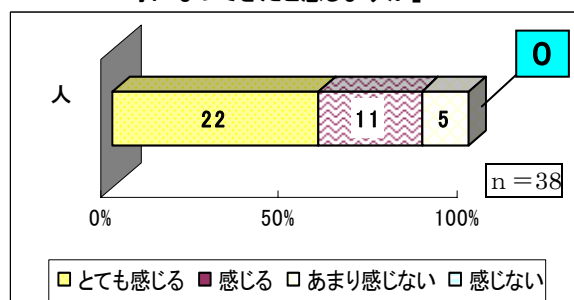


図3-20 事後アンケート「前よりも遠くに打てるようになってきたと感じますか」

図3-21は、事後アンケートによる「前よりも気持ちよく打てそうな気がしますか」における人数の割合である。「とても感じる」「感じる」と答えた生徒を合わせると38名中36名であり全体の約95%であった。

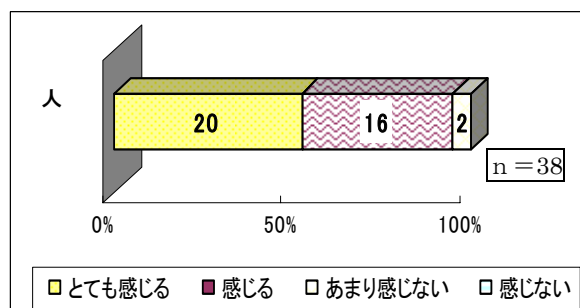


図3-21 事後アンケート「前よりも気持ちよく打てそうな気がしますか」

(イ) 学習カードによる分析

図3-22は、学習カードにおける生徒の感想の記述から、「気持ちがいい」等の心地よさと、「前よりできるようになってきた」「よい当たりが増えてきた」等の上達感に関するものをカウントし、打撃の高まりによる上達感と心地よさの推移を表したものである。「上達感」のコメントは4~12人であり、「心地よさ」のコメントは0~2人であった。

なお、表3-7および表3-8は、学習を進める段階で、生徒が上達感と心地よさを味わっている特徴的な記述の一部である。

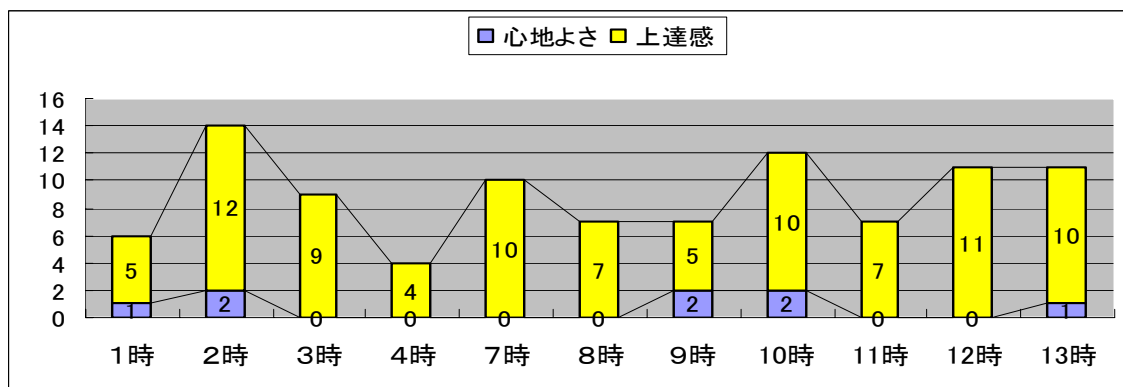


図3-22 学習カード「生徒の感想における、心地よさ・上達感の推移」

表3-7 学習カード「授業後の感想(上達感)」の記述

一発目で当てられるようになった。/ボールが遠くに飛ぶようになった。	
だんだんと上手く打てるようになった。/初めに比べて上手くなっていると自分で思える。	
すごい遠くにボールを打てるようになった。/打てるようになって楽しくゲームができた。	
以前より上手くなったような気がします。/だんだん打てるようになった。	
ボールを遠くへ前よりも飛ばせるようになって嬉しい。	
初めて音を立てて打てた時は嬉しかった。ボールが飛ぶようになりました。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前よりも打てるようになった。(27名)</li> <li>・遠くに飛ぶようになった。(17名)</li> <li>・全部当たるようになった。(11名)</li> <li>・上手く打てるようになった。(6名)</li> <li>・きれいに打てるようになった。(5名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイミングよく打てるようになった。(3名)</li> <li>・高く打てるようになった。(2名)</li> <li>・一発で打てるようになった。(2名)</li> <li>・よく見て打てるようになった。(1名)</li> <li>・空振りをしなくなった。(1名)</li> </ul>

表3-8 学習カード「授業後の感想(心地よさ)」の記述

当たったら気持ち良かった。スカッとした。当たっていい音が出たので気持ち良かった。	
ベットの音で打った時の音が好き。気持ち良かった。	
バットにボールが当たるとすごい気持ち良かった。	
打った時にすごく高く上がってしまい、その時ととも気持ちが良くて走るのを忘れてしまった。	
スローボールがフルスイングですごい遠くまで打てたから、嬉しかったし気持ち良かった。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち良かった。(4人)</li> <li>・すごく気持ちが良かった。(3名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカッとして気持ち良かった。(1名)</li> </ul>

(ウ) 事後アンケートの感想による分析

図3-23は、事後アンケートの感想による、「打撃・走塁・捕球・投球から1番興味をもっている技術はなんですか」における人数の割合を示したグラフである。1番生徒が興味をもっている技術は打撃であり29名で全体の約76%であった。次いで投球が5人、走塁と捕球は2名であった。

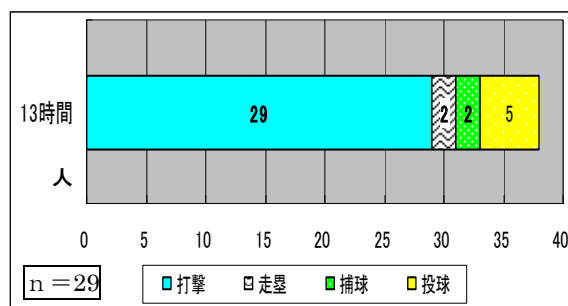


図3-23 事後アンケートの感想「打撃・走塁・捕球・投球から1番興味をもっている技術はなんですか」

図3-24は、図3-23での打撃と答えた29名の中で、打撃に興味をもった理由に、上達感と心地よさに関することを記述していた生徒の数である。これによると上達感は29名中、10名が、心地よさでは29名中、17名の生徒が打撃によって味わっていたことになる。なお、分析は、中学校教諭1名、中学校教諭経験者1名、高等学校経験者1名により、3名中2名が認めた場合に感想が該当するとした。

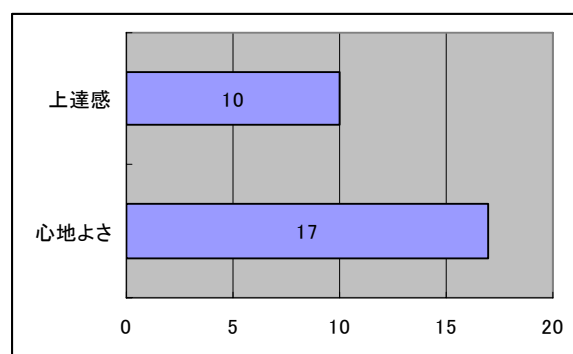


図3-24 事後アンケート感想「心地よさと上達感に関する記述」

表3-9は、図3-23における打撃を選んだ29人の記述から、上達感と心地よさの2つを同時に感じていたものの抜粋である。

表3-9 事後アンケート「打撃の心地よさと上達感」の記述

- ・打てると気持ちいいし、もっともっと遠くに飛ばしたいから。
- ・遠くに飛んだら気持ちいいから。
- ・バット操作を覚えれば、ボールを遠くへ気持ちよく飛ばすことができるから。
- ・やっぱり遠くに飛んだりすると、気持ち良かたりするからです。
- ・遠くに飛ばしたり、バントなど色々な動きができるから。ホームランとか打てるととても気持ちがいいから。
- ・打てるようになって気持ちがいいから。

**(3) ア 「学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができたか」についての考察とまとめ**

全員の生徒が、ボールを打って気持ちがいいと感じており、(図3-17) ほぼ全員の生徒が、学習に取り組む中で前よりも打てるようになってきたことを感じていた。(図3-18) また、学習を進める過程で、毎時間、上達感に関するコメントが生徒の感想に表れ、心地よさに関するコメントも、多くはないが時々感想に表れていた。打撃に興味をもった生徒には、その理由に上達感や心地よさについて述べている者が見られた。

このことから、生徒は学習を進める過程において、上達感や心地よさを感じる経験をし、打撃の充実感を味わっていたと考える。

## 6 指導の工夫とその効果及び課題

### (1) ミートするための指導の工夫

#### 【投球ボールの選択】

今回の授業では、バットにボールをミートさせるために、動きのない状態のティーボールから、トスボール・スローボールへと自分の能力に応じて選択する活動を行った。生徒は自分の現状と向き合い、見通しをもって課題に取り組み、ボールとバットのズレを修正することができた。また、5本中4本以上といった数値的目標も、生徒が次のステップへと意欲をもって取り組む意識付けに効果があったと考える。

#### 【リズムのカウント】

「1」でテイクバック、「2」でフォロースルーとリズムをカウントさせてバットを振らせたが、最初は一連の動きで振りきれず、ぎこちない動作や軸がぶれる生徒が多く見られた。しかし、リズムをカウントさせることで、生徒がテイクバックの状態を意識し、重心が安定した状態からスムーズにフォロースルーへとタイミングよく振れる感覚を養うことができたと考える。

#### 【バットに印】

バットのスイートスポットに印をつけたことで、生徒はスイング動作に入る前にティースタンドとの距離やミートポイントを確認することができていた。そのことにより、印に当たるまでしっかりとボールを見ることができたと考える。

### (2) フォームを身に付けるための指導の工夫

#### 【段階的な指導の工夫】

大きくて正確なフォーム動作を身に付けさせるために、スイングの状態が小さいミニスイングから、ハーフスイング、フルスイングへと段階的にスイング動作の質を高めていく方法を行った。スイングの状態が小さいものから学習することは体の使い方に無理がなく、生徒が正確なフォームを身に付けることには有効だったと考える。

しかし、各段階のスイングの違いが生徒に定着していなかったため、全体的にスイングが大きくなりがちであった。したがって、スイングの始動に関わる立ち位置をライン等で確認させること、ミニ、ハーフについては肘を体幹につけ動作に制限をつけること、フォロースルーを行った状態で静止し、身体の軸を確認すること、以上3点によって、より打撃の心地よさを感じさせることができると考える。

#### 【スキルアップシート】

各段階で必要な技能ポイントをスキルアップシートで相互評価させることで、生徒自身もっている技術的な課題を互いに共有させることができた。また、これにより、生徒のフォームに対する理解が深まり、客観的な視点から自分のフォームを確認することができたため、課題を明確に意識化することができたと考える。

### (3) 学習カード

今回の学習カードは、1日1枚ずつ板目紙に貼っていく形とした。内容としては、できるだけ図を使って生徒が学習の見通しをもてるように工夫した。また、生徒が記入する上で負担にならないような形としたが、なかには反省や感想だけでなく技術的な質問を記入する生徒もみられた。授業時間内では個々に対応しきれない部分を、学習カード上で具体的にアドバイスすることができた。

### (4) 場・人数の工夫

1チームを5人編成としたり、ゲームコートで4カ所作ったりして、ベースボール型の課題である運動量の確保に努めた。このことにより、単元を通して、常に活発な活動が展開されている状態で授業を進めることができた。また、投球ではストライクゾーンをイメージしやすくするために、防球ネットにフラフープを吊り下げ、そこを目標として投球する工夫をした。これによって投球者だけでなく、打者においてもストライク、ボールの感覚がつかめ

るようになり、ゲームの展開もスムーズに行われた。

## (5) 簡易ゲーム

簡易ゲームは、15～20分弱の時間で行った。授業の後半では、実際のゲームに近付けるため、1チームを10人編成にした。しかし、攻守ともに運動量が減少したことにより、活発さのないゲーム展開となってしまったため、当初の5人編成に戻した。また、学習により、攻撃力が徐々に向上することで、守備側の対応が難しくなることが考えられたため、生徒の上達のレベルに合わせて、三角ベースから通常ベース、塁間の距離、コート の角度、使用するボールを変えるなどの工夫を行った。そのことにより、生徒はゲームの中でソフトボールの特性に触れることができたと考える。

## 7 授業全体を振りかえって

授業においては、生徒が充実感を味わうことが、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために必須であり、そのため、今回の検証授業では、打撃に着目した取組を行った。その結果、生徒にどのような変容が見られたか、また、どのような取組を生徒が学習を進める上で有効と感じたかを振り返ることにする。また、新しい学習指導要領に取り組んだことによる率直な印象についても述べたい。

### (1) 生徒の変容について

#### ア バット操作の習得状況について

授業開始時における生徒の様子では、バット操作に慣れていないということもあり、空振りが多かった。最初はバットの重さをコントロールできない生徒が多く、ダウンスイングが目立った。しかし、バットを水平に振りきる学習を行ったことで、徐々に身体の回転軸を生かしたバット操作となった。また、ボールが来るのを待てずに、迎えに行くようなバッティングも見られたが、ティースタンドを使用したことで、ミートポイントがどこにあるのか理解でき、ボールを目で追うことを意識して取り組んでいた。このことから生徒の実態に合わせ、ティーボールから始めたことは大変に有効であったと考える。3年の課題としては、投球されたボールにタイミングを合わせて打つこと、遠くへ飛ばせるようなバッティングフォームを身に付けることであると考える。

また、(図3-25)は、バット操作の習得状況についての、生徒のアンケート結果である。「大きくて正確なスイングでタイミングよくボールを打つことが身に付きましたか」との問いに、事後では全体の約76%にあたる29名の生徒が、バット操作を身に付けたと感じている。これは、学習過程や場の工夫が、生徒にとって有効な手段であったため、結果としてバット操作を身に付けることができたと回答したものと考えられる。しかし、9名の生徒にとってはバット操作に対して課題が残っており、今後、授業を行う際には、生徒が疑問に感じていることを全体で共有する話合いの場を設定したり動画などを使い、視覚に働きかける教材によって生徒がよりイメージできたりするような工夫を取り入れていく必要がある。

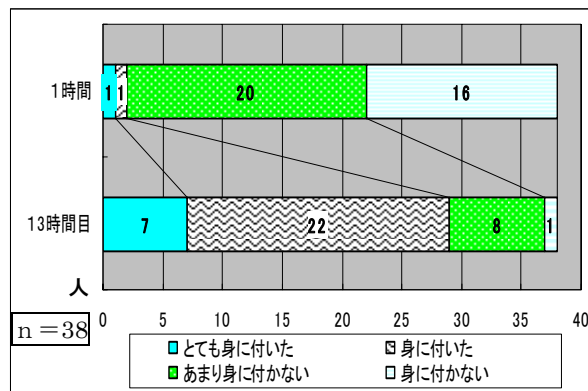


図3-25 事前・事後アンケート「大きくて正確なスイングで、タイミングよくボールを打つことが身に付きましたか」

#### イ ボール操作、ボールを持たない動きの習得状況について

ゲームでは、全員が打てるルールや場の工夫をすることで、打撃だけでなく、走塁・捕球・送球といった、さまざまな場面を展開することができ、得点を入れることだけでなく、守備面で点を入れずにアウトにするといった意識も、徐々に生徒に芽生えてきた。しかし、打撃を中心としたことで、投げる・捕るといった技術、ボールを持たない動きの習得にか

ける時間数が不足してしまい、守備に対しての技能習得は十分に深めることができなかつた。グラブを使用したことのない生徒にとっては、ボールが入る前にグラブを閉じてしまったり、ボールがグラブに入ってもタイミングよく閉じることができなかつたりと、落球する場面も見られた。そのため守備では、塁上にいる仲間に送球することが直接エラーにつながる可能性が高くなり、生徒は自らが鬼ごっこの鬼のように走り、ランナーに近付いて確実にタッチアウトする姿が多く見られた。なるべく早い段階からグラブに慣れさせ、ボールを捉える感覚をつかませることが大事だと思った。また、安定した捕球・送球を身に付けるためには、バットのミートポイントに印をつけさせたように、グラブにもキャッチングポイントに印をつけさせ、投球者がねらいを定め易くさせる工夫も必要であった。これは、投球者だけでなく捕球者にとってもボールに備える準備姿勢となり、双方にとって有効な練習方法であると思う。

また、ボールを捕ったらどこへ投げれば良いか、判断できていたチームにベースカバーや中継プレイが見られたため、その判断をプレイで生かせるように、投げる・捕るといった基本動作を身に付けさせ、塁上にボールがスムーズに回せるようにさせたい。そのためには、オーバースローにこだわらずに、生徒の投力によってはゴロでの送球で方向を定め、次にワンバウンドでねらった方向に送球する等、個人差に応じた送球の仕方をゲームに取り込む必要がある。

### ウ 興味のある技術について

図3-26は、事前・事後アンケート「打撃・捕球・投球・走塁の中で1番興味のある技術は何ですか」における人数の割合を比較したものである。事前の段階から打撃には多くの生徒が関心をもっていたことがわかる。事後においては、新たに9名の生徒が打撃に興味をもち、29名に増加した。また、表3-10は事前・事後アンケートより、他の技術から打撃へ興味をもった生徒の記述を抜粋したものであるが、これらの感想からは「打てるようになって気持ちがいいから」など、打撃の心地よさや上達感を感じているものがあつた。生徒のニーズに応じることや、興味を引き出すといった意味においても、打撃からの取組が生徒に有効であったと考える。

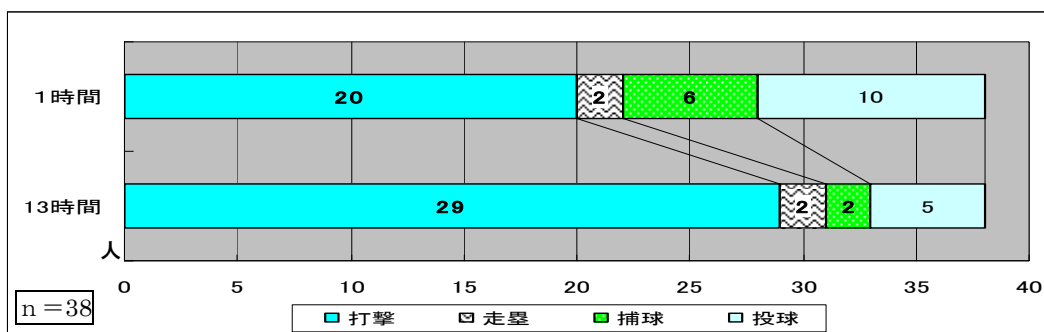


図3-26 事前・事後アンケート「打撃・捕球・投球・走塁の中で1番興味のある技術」

表3-10 事後アンケート「他の技術から打撃に興味をもった生徒の記述抜粋」

・打った時、気持ち良かったから。
・打てるようになって気持ちが良いから。
・一番苦手でもあるし、スカッとするから。
・ソフトボールでいろいろ学んで打つことに興味がわいてきた。
・4つの技術をやって1番打つのが楽しかったから。
・いかに遠くに飛ばせるか、タイミングよく打つことができるか、何度も練習するたびに深められると感じたから。



## エ ソフトボールのイメージについて

図3-27、図3-28は、事前・事後「ソフトボールが得意ですか」「ソフトボールに自信がありますか」における人数の割合を比較したものである。事前の段階で「とても得意」「とても自信がある」と答えた生徒は0人であり、「得意」「自信がある」といった生徒も4～5名とごく少数であった。事後アンケートでは、「とても得意」「とても自信がある」が5～6人、「得意」「自信がある」も7～8人へと増加してはいるが、「あまり得意ではない」「あまり自信がない」が全体の60%以上を占めていた。これは、今回の授業ではバット操作に対しては、生徒が自信をもって取り組み、技術の高まりも感じられたが、守備側のゲームの動きに対してはポジションの役割等を理解するところまでは至らず、生徒が得意であると思ったり、自信があると感じたりするには至らなかったのだと考える。このことは、時間数が絶対的に不足していたことが大きな要因と感じるが、ソフトボールを得意にしたり、自信をもたせたりするためにはバット操作のみならず、捕球、送球、走塁や、ボールを持たないときの守備についても準備運動の時間を有効に使ったり、打撃練習時に守備の動きを理解させたりするなどの手立てをとり、身に付いたと実感させることが必要と感じる。

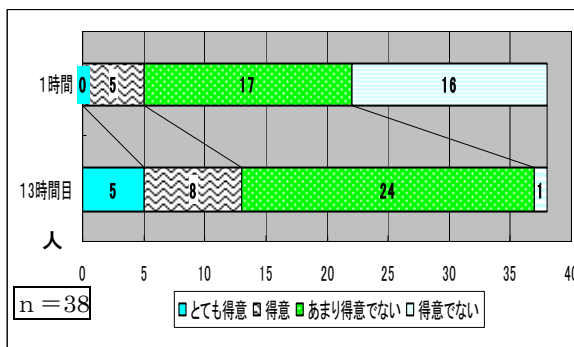


図3-27 事前・事後アンケート「ソフトボールが得意ですか」

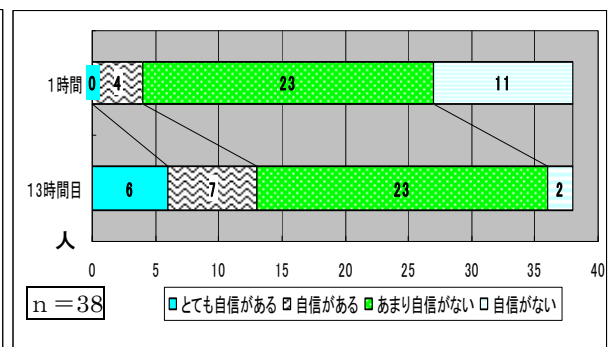


図3-28 事前・事後アンケート「ソフトボールに自信がありますか」

## (2) 授業での有効な取組について、研究以外で以下に関わることを述べてい

### ア 発展的なゲームの構成について

今回の授業では、小学校での簡易ゲームから通常のゲームに近付けるものとして、「満塁からのゲーム」「フリーバッティングゲーム」「投球ボール選択ゲーム」の順で構成を行った。(図3-29)

「満塁からのゲーム」では、良かった点は、5人全員が役割（バッター1名・ランナー2～3名・記録1名）をもつことで所属感を高めたこと、ベースボール型の課題である運動量の少なさを十分にカバーできたこと、攻撃ではどのようにすれば得点につながるのか、守備ではどのようにすればアウトがとれるかなどのルールや戦術が理解できたことである。ルールを理解したことにより、その後の三角ベースから通常のベース、「満塁からのゲーム」から「ランナー1塁からのゲーム」へと、ゲームの条件が発展しても生徒の順応は早かった。

「フリーバッティングゲーム」では、「投球ボール選択ゲーム」へのステップとして、ピッチャーから投げられたボールを打ち、練習成果を打球の勢いや・飛距離といった形で実感できたので、生徒にとって励みとなった。

「投球ボール選択ゲーム」では、生徒は自分の技術に合ったボールをティーボール・トスボール・スローボールから選ぶことで、技能の個人差を気にすることなく、どの生徒も熱中してゲームに取り組めた。このように、発展的なゲームの構成には無理がなく、技術を深めるにはよいものであったと考える。

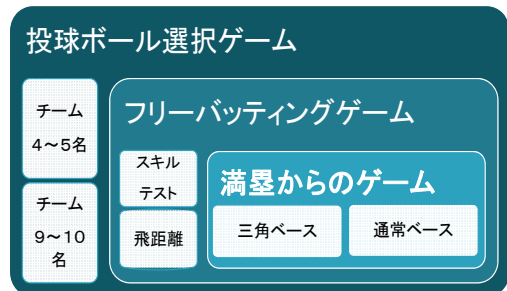


図3-29 『ゲームへの展開』

しかし、チームの人数を9～10人にして行ったゲームでは、極端に運動量が減ってしまい、やる気になっている生徒のモチベーションを低下させてしまった。そのため、当初は9～10人で3時間のゲームを予定していたが、4～5名のチーム編成に戻してゲームを再開した。また、ファストピッチでのゲームも考えてはみたが、投球者のボールコントロールが一定しないといった課題があるため、スローピッチングでの緩やかな投球によるゲーム、もしくは、自分のチームからピッチャーを出し、打たせるための投球によってゲームを進めた。初歩的な段階では、この様なゲームがベースボール型の特性を味あわせることに効果的であったと考える。

### イ スキルアップシートの活用について

生徒は、スキルアップシート(表3-11)を使い、各スイングに求められる技術ポイントをグループやペアでチェックし合い、技術ポイントが全て○になることで「できている」と判断させた。そのため、チェックを受けた生徒は、○×で自分自身のフォームの状態や課題点が明確になり、その課題を意識することができていた。また、チェックを行う生徒も、各ポイントを見取りシートに記入をすることで、「大きくて正確なスイング」のイメージが整理でき、自己観察が困難な部分に対しても有効であったと考える。しかし、チェックを行う際に説明が不十分だったため、生徒によって見取る技術ポイントに差が生じてしまった。もっと評価方法を簡潔に、誰が見ても「できている」、「できていない」の違いがはっきりとわかるような項目の整理や、表示の仕方を行う必要があった。

表3-11「スキルアップシート」

技術ポイント		選択				
			ティー トス	ティー トス	ティー トス	ティー トス
			スロー	スロー	スロー	スロー
ミニ ス イ ン グ	①スイングが腰の位置からでている					
	②手の甲を上にして構えている					
	③手の甲を正面にして構えている					
	④上体のひねりを使っている					
	⑤水平にバットが振れている					
	⑥手首を返している					
ハ ー フ ス イ ン グ	①スイングが胸の位置からでている					
	②手の甲を正面に向けて構えている					
	③肘と膝が連動して同時に動いている					
	④水平にバットが振れている					
	⑤手首を返している					
フ ル ス イ ン グ	①スイングが肩の位置からでている					
	②手の甲をピッチャーに向けて、耳の位置で構えている					
	③へそをピッチャーむけてバットを振り、頭が残っている					
	④重心移動しバットを振り終えた後も軸がぶれていない					
	⑤水平にバットが振れている					
	⑥手首を返している					

## ウ ボールの工夫について

図3-30は、事後アンケート「各種投球ボールを打ち気持ちがいいと感じますか」における人数の割合を比較したものである。スローボールでは「とても感じる」が27名と、他の投球ボールと比較して1番多かった。その要因としては、人を介してのボールであることから、1球ごとに高低差やコースの異なるボールが投球されるため、予測がつかないボールを打つことはスリリングであり、興味をもったのだと考える。また、スローボールをミートすることは、生徒自身もティー・トスに比べて、難易度の高いボールと認識しているため、芯をとらえる感覚をつかんだり、ミートすることができた時、充実感を得たものと思われる。



図3-31「ウレタンボール」

トスボールにおいて、他と比較して気持ちが良いと感じた生徒が少なかったのは、スポンジボールを使用していたため風の影響を受けやすく、ボールを一定の位置で捉えることが難しいことや、飛距離が伸びないこと、また、打った時のボールの感触や、発する音に充実感を感じられなかったことが考えられる。そのため、心地よさを感じさせるためにはスポンジボールではなく、手ごたえや音の出るものや、動きが安定するような、ある程度重さのあるものを使用することが必要と感じる。しかし、初歩段階の生徒では、やはりボールの扱いに対して安全面が気にかかる場所であり、痛い怖いといったマイナスのイメージによって、パフォーマンスが低下してしまうことも考えられる。そこで今回の授業では、ゲームの前半は通常のソフトボールよりは小さいが、ボールを素手で扱っても安心なウレタンボール(図3-31)を使用した。このボールはグラブで捕球する際にも、若干重さがあるので収まりやすく、風の影響もさほど受けにくいものであった。さらに打撃においては、通常のソフトボールには劣るものの、芯を捉える感覚、ボールの飛距離では十分に満足できるものであった。また、雨天時でも体育館等、室内で使用することができるのも安全に活動できるため魅力である。

よって、ベースボール型の授業に初めて取り組む生徒や、雨天時の学習には、ウレタンボールを使用することが効果的だと思われる。

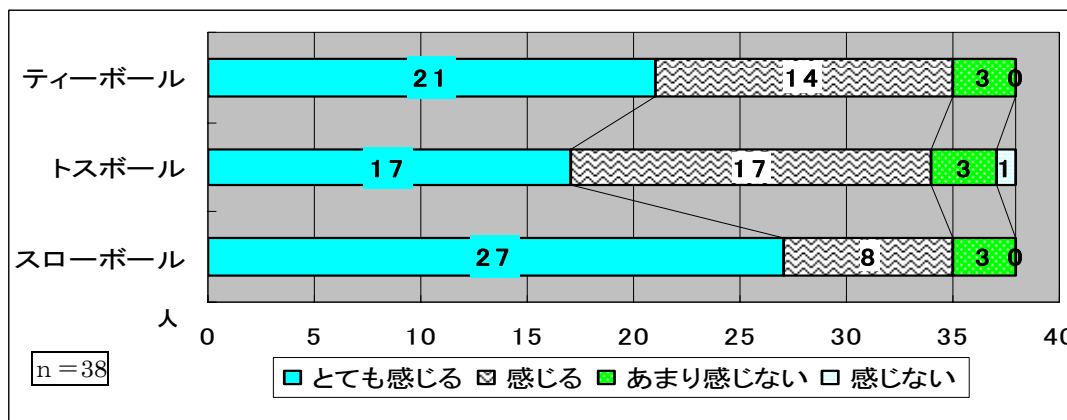


図3-30 事後アンケート「各種投球ボールを打ち気持ちがいいと感じますか」

## エ バットの工夫について

図3-32は、1時間目のトスボール、スローボールでのスキルテストと基本練習で使用したペットボトルバットである。市販のペットボトルの形状であれば、500mlにも、2lにも対応できるものであり、スポンジボールと併用すれば室内でも容易にバッティング練習が可能である。

実際に、雨天時に体育館で使用したが、遠くに飛ばすためには腕の振りだけでな



図3-32「ペットボトルバット」

く、膝や腰を入れることに気付いた生徒も多かった。今までバットの重さに振り回され、なかなか意識することができなかつた下半身との連動や軸を理解させるには効果的であった。バットの重さにより思い通りに振れない生徒にとっては、ミート感覚や素早いスイングを意識できる教材である。振りが安定してきたら、水を入れることで負荷をかけるなどの工夫もできる。

なお、各グループに1本では本数的に十分ではなかつたので、活動に応じて数を増やす必要があつた。

よつて、筋力の弱い生徒や、雨天時のミート練習、さらに室内で技術を確認する補助教材としてペットボトルバットを勧めたい。

## オ 段階的スイングと打撃の心地よさについて

図3-33は、事後アンケート「各種スイングで打ち気持ちがいいと感じますか」における人数の割合を比較したものである。「とても感じる」「感じる」と答えた生徒を合わせると、38名中ミニスイングでは27名、ハーフスイングでは36名、フルスイングでは37名であつた。また、「あまり感じない」「感じない」では、ミニスイングでは11名であつたものが、ハーフスイングでは2名、フルスイングでは1名であつた。

とくにフルスイングにおいては「とても感じる」と答えた生徒が34名と全体の約90%を占め、「感じない」と答えた生徒は0名であつた。これは、スイングの動作が大きくなるほどボールを打つた時の感触や打球の勢いを実感でき、それによつて感じる気持ちのよさが増加するものとする。

今回の授業では、小さく不正確なフォームを大きく正確なものとするために、スイングの大きさを3段階に設定して打撃練習を行った。生徒にとつてミニスイングやハーフスイングでは、思い切り振れないことにストレスを感じるのではないかと思われたが、実際に行つてみるとミニスイングでもミートすることが難しいと感じたようであつた。

よつて、打撃の心地よさを感じさせるには、ミニスイング、ハーフスイング、フルスイングと、段階的に取り組むことによつて、大きな動作でスイングすることが重要と考える。

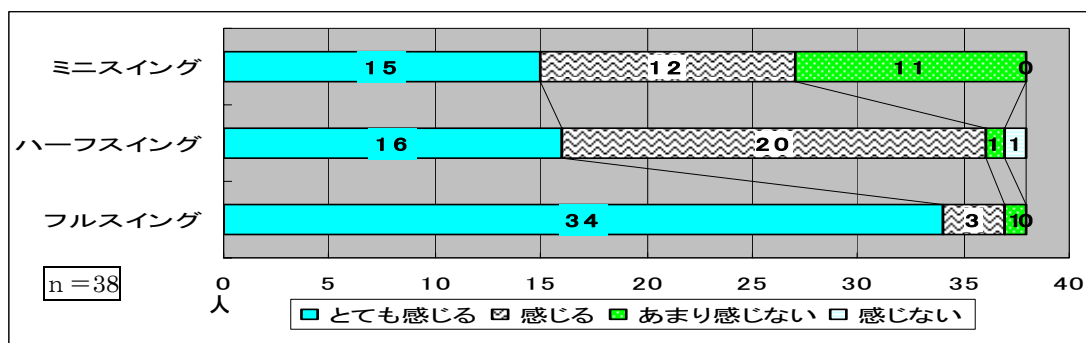


図 3-33 事後アンケート「各種スイングで打ち気持ちがいいと感じますか」

### (3) 学習指導要領解説に示された内容の印象について

表3-12は、「ベースボール型」のバット操作・ボール操作と、ボールを持たないときの動きの例として、中学校学習指導要領解説に示されたものである。網かけをした部分は、今回、ベースボール型の授業に初めて取り組んだ中学2年生の女子を対象とした際に、技術を身に付けるのが困難だと感じる部分である。

表3-12「ベースボール型のバット・ボール操作と、ボールを持たないときの動き例」

	中学校1、2年	中学校3年、高校1年
バット操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩越しでのバットの構え</li> <li>・水平になるようなスイング</li> <li>・タイミングを合わせた打撃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の軸を安定させたスイング</li> <li>・高さやコースへのタイミング</li> <li>・ねらった方向への打ち返し</li> </ul>
ボール操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆるい打球に対応した捕球</li> <li>・大きな動作での送球</li> <li>・正面の送球をうける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最短距離で移動した捕球</li> <li>・一連の動きでの送球</li> <li>・タイミングよく送球をうけたり、中継したりする</li> </ul>
ボールを持たないときの動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全力疾走での塁への駆け抜け</li> <li>・減速、反転による塁上での停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円を描く走塁</li> <li>・打球に応じた進塁</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守備位置での準備姿勢</li> <li>・ポジションごとの基本的な動き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進塁先のベースカバー</li> <li>・中継プレイに備える動き</li> <li>・ダブルプレイに備える動き</li> </ul>

#### ア 技能

##### (ア) バット操作

中学校1、2年の例示、「肩越しでのバットの構え」「水平になるようなスイング」「タイミングを合わせた打撃」を、毎時間の打撃練習の中で、生徒に特に意識して取り寄せたことによって、基本的なバット操作が身に付いたと考える。しかし、学習指導要領解説の中学校3年にある、「高さやコースへのタイミング」は、安定した投球技術が生徒に身に付いていなければ、「高さ」「コース」にタイミングを合わせる練習をすることは難しい。また、「ねらった方向への打ち返し」は、ソフトボール部で活動する生徒であっても、なかなか習得するには時間がかかるのが現状ではないかと思う。限られた単元時間の中で、それも一週間に2回での授業では1、2年の内容を3年のスタートで扱い、丁寧に繰り返して行く必要がある。

そのため1、2年では、最低限タイミングを合せることができるように、ミートポイントを意識し、正確なフォームづくりに取り組むことがふさわしいと感じる。

##### (イ) ボール操作

中学校1、2年生のボール操作の例示にある、「ゆるい打球に対応した捕球」「正面の送球をうける」「大きな動作での送球」は、練習の場面や試合でもできていたと感じる。しかし、「正面の送球をうける」ということは、送球する生徒の技術にも正確さが必要なため、フラフープの円内をねらって投球したり、防球ネットに印をつけて、そこを目当てに投球させるなど、コントロールを付ける取り組みせ方に配慮が必要であった。

##### (ウ) ボールを持たないときの動き

ゲームでは、投球が開始されるごとに、各ポジションの決められた位置に立つことはできた。しかし、その次の動きはベース上に留まっている生徒が多く、動きの少ない守備になっていた。これは、自分の役割を理解していないことが要因と考えられる。アウトが生じるパターンを「0点で抑えるためには」「1点で抑えるためには」等、プリントでまとめ、各ポジションの役割をパターン化し理解させる手立てをとった。しかし、プリントを

扱ったのが授業の12時間目からであったため、最終授業まで十分に身に付けさせることができなかった。次年度は、さらに理解を深めさせ、自分の守るべき守備範囲やベースカバー・バックアップ等の動きを身に付けることが必要と感じた。また、打球や送球に構える準備姿勢では腰が高い生徒が目立ったため、授業の中で繰り返し助言していくことが必要と感じた。

走塁については、「全力疾走での塁への駆け抜け」がイメージしやすいように、塁間に誘導するラインを描き、そのラインに沿って身体を内側に傾けたベースランニングを行った。しかし、三角ベースで行う際には鋭角なため、アウトからインに体を傾けて入り込むことや、全力でタイミングを合わせて駆け抜けるには、コーナーで減速しなければならず、ふさわしくないと感じた。今後、三角ベースでの有効な走塁（アウトからインが有効に作用するような走塁方法）や、三角ベースの代用となるコート設営（ベースを置く代わりに半径2mの円を描く）、各自の走力や筋力を生かした走塁方法を考えていく必要があると感じた。今回の授業では、中学校1、2年の内容である、「ポジションごとの基本的な動き」「減速、反転による塁上での停止」の習得までは至らなかったが、ポジションの動きと走塁の判断が理解できれば、3年での「進塁先のベースカバー」「中継プレイに備える動き」「ダブルプレイに備える動き」が、ゲームの中で現れてくるだろうと思う。

## イ 態度

### (ア) フェアなプレイを守ろうとすること

授業開始時に、「どうすれば楽しい学習になるのか」を考えさせ、そのためにはルールやマナーを守ることが大切だと指導した。ゲームでは、チームのほぼ全員がプレイヤーとして活動していたため、全てセルフジャッジでのゲームであったが、「アウト」「セーフ」の微妙な判断であっても、ジャンケン等で相互が納得する解決策をとっていた。今後、ゲームの内容が発展していくと同時に、生徒が自ら判定する力も身に付ける必要があるが、「ベースボール型」だけでなく、どの種目でもフェアなプレイを守るといったことは共通した課題であり、相手の健闘を認めることや、球技独自の楽しさを感じさせるためにも、公平性といった気持ちを、日頃から育てることが大切であると感じる。

### (イ) 分担した役割を果たそうとすること

少人数のグループ編成により、キャプテン、記録係、用具係等、それぞれが分担した役割に自覚が持てるように役割を分担させた。特に、授業を行った時期はインフルエンザによる影響を強く受けたため、少ないチームは3名で準備、片付け、記録等を行ったが、互いにカバーしながら円滑に活動していた。このように分担して役割を果たすということは、社会生活を過ごす上で必要な責任感を育てるため、今後も一人一役を設けて授業を展開することが、望ましい集団への関わりとなる手立てと考える。

### (ウ) 話合いに参加しようとする

ゲームの開始時、新しい取組に入る場面、毎時間の振り返りで話合いを設定した。チームの話合いには、どの生徒も積極的に参加していたが、時間の設定が短かったため、キャプテンの考えで行動が決定していた様子がうかがえた。したがって、もう少し話合いの時間をとって、作戦等、それぞれの考えを伝える場面をつくるべきであったと感じる。

### (エ) 安全に気を配ること

生徒は自分の体調に合わせて無理なく活動を行っていた。ベースボール型では特に安全面に留意しなければ、命に関わる大怪我につながるため、用具を扱うことに十分に気を配ることが必要であった。そのため、ベースボール型で起きやすい怪我の事例を話し、バットを振る際には、周囲を確認し「いきます」と声をかけ「いいよ」と返事があるまで振ってはいけないこと、ボールを取りに行く際には、周辺のグループに声を掛け、一斉に取りに行くこと、ゲームでバットを振った際には、バットを投げずにバット置きサークル内に入れること、投球距離が近いため、ピッチャーは投げた後、素早く胸の位置でグラブを構える等、以上、4点については繰り返し授業時に話をすることを心掛けた。しかし、使

用したボールが転がったままで、ボールに足をとられかねない危険な状況があった。ボールをその度、回収し、転がっていた場合には活動を一端止めるなど、安全に対する意識を定着するべきであった。

## ウ 知識、思考・判断

### (ア) 球技の特性や成り立ち

事前アンケートでは、ほとんどの生徒がソフトボールは野球の女性版だと感じていたようであり、特性や成り立ちについても、ソフトボール経験者がいないため、ソフトボールに関する知識がなかった。そこで、ゴール型、ネット型の種目にあてはめて考えさせ、他の種目とは異なる特性やゲームの行い方を話し、話しただけでは理解しきれない部分においては、学習カードや補助資料等を使い補足を行った。さらに特性を理解させるためには、生徒のゲームの様子やオリンピック等の映像を見るなどし、実際の動きの中から視覚的に働き掛けることも必要だと感じる。

### (イ) 技能の名称や行い方

前半の簡易ゲームでは、ポジションとしての役割を設定していないゲームであったため、主に「アウト」「セーフ」といった言葉でのゲーム展開であった。一般的に使われているポジションの名称などは、後半のゲームから行い、資料の配布やホワイトボードを使用して指導を行った。しかし、グループの編成が5人であるため、実際に作戦を考える場面では、1塁をカバーする役割を第1ファースト、第2ファーストとし、2塁、3塁も同様に内外野で塁に接しているポジションの役割に取り組みさせた。このように、実際にポジションの位置に繰り返し立ち、動きを覚えることで、用語の名称や行い方の理解が深まると思えるため、やはり、専門用語を学ばせる際には、紙面上での確認を含め、動きと連動させた指導が必要と考える。

### (ウ) 関連して高まる体力

球技では、それぞれの型や運動種目によって、主として高まる体力要素が異なることを理解するために、「ゴール型」「ネット型」と比較したプリントを配布した。「ベースボール型」で関連して高まる体力には、特に瞬発力や筋力などがあり、「ゴール型」「ネット型」と比較したことで、生徒は種目に応じた選手の体格を基に技能要素を思い浮かべ、それぞれの型と関連したイメージをもつことができたようである。

### (エ) 課題に応じた運動の取り組み方の工夫

学習指導要領解説では、第1学年及び第2学年では、基礎的な知識や技能を活用して学習課題への取り組み方を工夫できるようにするとしており、毎時間、投球ボールが選択できる場の選択や、フォーム作りのためのチェック活動を行った。また、各グループで練習の行い方を話し合わせるなどし、これらの活動を通じて、生徒は自己の課題に応じた練習に取り組んだ。このように、それぞれが自分に合った課題や役割に取り組むためには、毎時の課題設定や生徒への確認が必要であり、実態に則した課題の提示を行うことが望ましいと考える。

#### (4) 本校第3学年での単元計画案について

今回の検証授業は、2年で行ったが、自分の技術に合った学習過程や場を選択することにより、バット操作を身に付け、打撃の充実感を味わうことができた。しかし、13時間という授業の中では、打撃に関しては、ほとんどの生徒が身に付けることができたものの、捕球、送球の守備に関わる部分を身に付けるまでには至らなかった。やはり、3年間を見通した計画は必要であると感じた。よって、「ベースボール型」で求められる技能要素を習得させるには、3年でも12時間以上必要だと考える。

表3-13は、本校で3年に「ベースボール型」の授業を実施する場合の単元計画として考えたものである。3年では、2年の攻撃を重視した学習を踏まえ、守備側の連携したプレイに着目する構成とした。また、ボール操作に関する技術の練習と、身に付けた技術を実践する場としてゲームを行い、易しい投球に対する安定した打撃により、出塁・進塁・得点する攻撃と、仲間と連携したバランスのとれた攻防を展開できるようにしたい。そのために必要な技能要素として、2年と同様に打撃・捕球・送球・走塁があるが、学習指導要領での例示に当てはめると求められる技能要素が高度なため、本校生徒の実態に合わせ、やや易しい構成にしている。よって、ねらい1の6時間を2年に行った動きを発展させ、今、もっている力でゲームを楽しむこととし、そして、後半の6時間をねらい2とし、仲間と連携したプレイでゲームを楽しむこととした。2年に打撃に取り組んでいるので、打球を捕る経験が豊富にでき、捕球・送球・走塁・打撃と、バランスよく技術の習得ができるものとして考えた。

表3-13「本校第3学年でのソフトボールの単元計画（案）」

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	ねらい1 今、持っている力でゲームを楽しむ。						ねらい2 仲間と連携したプレイでゲームを楽しむ。					
10	①挨拶、チーム練習(ベースランニング、キャッチボール)											
20	②学習内容の確認 ポジションの役割を理解する 進塁の判断						中継プレイに備える動き 走者の進む先の塁に備える					
	捕球・定位置でのボール捕球。 ・ベース上でボールを捉える。 投球・一連の動作での投球。 走塁・次の塁への進塁をねらう。 打撃・一連のスイング動作で打つ。						捕球・移動しながらの正面でのボール捕球。 ・ベース上に移動してボールを捉える。 投球・一連の動作でねらった方向への投球。 走塁・打球の状況に応じ進塁の判断をする。 打撃・一連のスイング動作でタイミングを合わせて打つ。					
45	③簡易ゲーム・ティーボール(三角ベース)						・スローピッチ(通常ベース)					
	④話し合い(作戦タイム)											
50	⑤ゲームの反省、学習カード記入											



## 第4章 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本研究では、学習過程や場の工夫によりバット操作を身に付け、打撃の充実感を味わうことを目標として授業を進めてきた。

その結果、次のことが明らかになった。

多くの生徒が

- (1) 投球ボールが選択できる場の工夫により、ミートするバッティングが身に付いた。
- (2) 段階的な学習過程の工夫により、大きくて正確なフォームが身に付いた。
- (3) 学習を進める過程により、打撃の充実感を味わうことができた。

### 2 今後の展望と課題

打撃に着目した授業展開は効果的だった。多くの生徒に大きくて正確なフォームでミートするバッティングが身に付き、打撃の充実感を味わわせることができた。しかし、打撃に重きを置いたことで、ボールを持たないときの動きや、投げる・捕るといった技術を十分に習得させることができなかつたことが反省である。また、話合いの場面も十分に設定できたとは言えず、短時間での話合いからは、仲間と連携した動きでの攻防や、課題に応じた運動の取り組み方を工夫するまでには至らなかつた。もっと、グループでの活動を充実させるためにも互いの考えを伝え合う時間を確保し、生徒間の理解を深める必要があつた。これはなによりも、自分自身のベースボール型の授業経験が浅く、13時間で身に付けなければならない豊富な技術に対して、見通しの甘い単元計画を立ててしまったことにある。

これを踏まえ、今後、授業を計画する際には、まず、小学校ではどのようにベースボール型の授業が行われているのか見学することから始め、生徒の実態を自分の目で確かめた上で学習内容の選定を行い、限られた時間の中で有効に学習ができるマネジメントを行っていききたい。そのためには、学習指導要領をよく理解し、例示を参考にしながら生徒に合った学習方法を考えていききたい。

また、この研究を機に、3年間を見通した単元計画の整理や、技術要素を視覚的に学ぶための映像資料にもチャレンジしていきたいと考える。そして、生徒が早い段階から戦術的な動きを身に付けることができるように補助資料の充実にも励み、用具においても補充や代用により活動を充実させていきたい。

以上のことから、今後はスキル習得のための教材を工夫することや、用具不足の改善のために、学校間で貸し借りできるシステムづくりに取り組んでいきたい。そのことにより、一人でも多くの生徒がソフトボールに意欲的に臨み、ゲームの楽しさを感じることができるようになると思う。

### 3 最後に

これまで、授業に対してじっくりと取り組む必要があると感じつつも、日頃の忙しさを理由に現状の授業で満足していた。授業研究というものに対して高度なスキルが必要なため、特定の人が行うといった認識でしかなく、自分には関わりがないこととして受け止めていた。

そのなかで本研究がスタートし、計画通り授業ができるのか、協力してくださった勤務校の先生方へ報いることができるか、成果を上げることはできるのかなど、非常にプレッシャーを感じた。そして、今まで深く考えることをせず無計画に授業を行ったり、振り返ったりすることなく進んできたことを反省した。

検証授業に入っても、用具の準備や毎時間の計画に追われ、思い通りに進まない現状を思い知った。また、まとめの作業においても、パワーポイントの技術が未熟なため、相手に理解を得られるような表現方法の難しさに戸惑った。

しかし、現場を離れ、1年間授業に関する研究に取り組むことで、じっくりと文献や指導書に目を通すことができた。そこには教科書にはない独自の実践があり、工夫を凝らしたさまざまな取組から、実に多くのことを学ぶことができた。学習指導要領も、今までほとんど読んだことはなかったが、実際に手にしてみると指導に必要なことが簡潔に書かれてあり、指導案を組み立てるにはなくてはならないものだった。

また、スポーツ全般に関わる研修では、専門的な講義を受けることや校種間の交流からも、毎回新鮮な発見をすることができた。

このような貴重な経験は、研究に携わらなければできなかったことであり、改めて生徒に学習のねらいを明確に提示することの大切さや、常に生徒が課題を意識して取り組めるような準備の必要性、個々の課題に適切な支援を行うことで、主体的な活動や意欲につながる事等が再認識できた。

この研究を無事に終えることができたのは、保健体育科の先生をはじめとする大野北中学校の先生方、相模原市教育委員会の渡邊仁主幹、奈良田久指導主事、そして、授業に一生懸命取り組んでくれた生徒の支えや協力があったことであり、心から感謝の気持ちでいっぱいである。今後も、生涯を通じて運動に親しむ態度を育てることが教師であることを肝に銘じ、生徒が豊かなスポーツライフを形成できるような授業展開を考えて行きたいと思う。そして、さまざまな授業実践から、よりよいベースボール型の授業実践に取り組んでいきたい。

この研究が、現場で活躍されている先生方に、少しでも役立つヒントとなれば幸いである。

#### 【参考文献・引用文献】

- 1) 内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」2006
- 2) 伊藤陽一「新学習指導要領の手引」大修館書店 2008
- 3) 文部科学省「中学校学習指導要領解説保健体育編」東山書房 2007
- 4) 高橋健夫「ボール運動の指導プログラム」大修館書店 1999
- 5) 湘南ベルマーレ監修「DVD上達レッスンソフトボール」成美堂出版 2008
- 6) 富永靖弘「野球テクニク&トレーニング」新星出版社 2003
- 7) 平野裕一「打つ科学」大修館書店 1992
- 8) 財団法人日本体育学会監修「最新スポーツ科学事典」平凡社 2006
- 9) 高畑好秀「野球 89 のアイデア練習法」池田図書 2005
- 10) デジタル辞書「大辞泉」ジャパンナレッジ版 2010
- 11) 落合博満「ベースボール・クリニック (バッティングの考え方)」ベースボールマガジン社 2003
- 12) 大島康徳「Hit & Run (打撃向上マニュアル)」ベースボールマガジン社 2005年5月号
- 13) 立花龍司「メジャー流少年野球コーチング」高橋書店 2008
- 14) 石井忠道「中学野球の指導とノウハウ」ベースボールマガジン社 2003
- 15) 宇津木妙子「宇津木妙子ソフトボール入門」大泉書店 2001
- 16) 山本政親「見てわかるソフトボール」西東社 1999
- 17) 柴田義松「新訳版・思考と言語」新読書社 2001
- 18) 松岡重信「保健体育科・スポーツ教育」明治図書 1999
- 19) 金子明友・朝岡正男編著「運動学講義」大修館書店 1990
- 20) 堀江文利「学校体育用語辞典」大修館書店 1993
- 21) 出原泰明「体育の授業方法論」大修館書店 1990